

「宮代町の古代の遺跡」

宮代町教育委員会 文化財保護担当 河井伸一

1 宮代町について

宮代町は、関東平野の中央部にあり埼玉県の東北部に位置する。東西 2 km、南北 8 km を測り、北西から南東にかけて細長い形をしており、面積 15.95 km²を測る。東武スカイツリーラインが町を縦断している好条件のもと、都心へ通勤するベッドタウンとして昭和 40 年代以降人口が急増し、現在の人口は約 33,500 人を数える。駅は北側から和戸駅、東武動物公園駅（旧杉戸駅）、姫宮駅がある。

町の東側には、北葛飾郡杉戸町、南側には春日部市、西側には白岡市、北側には久喜市に接しており、町域を画するように北から東、そして南へとかつての利根川の本流であった古利根川が流れている。

宮代町は、昭和 30 年 7 月 20 日、百間村と須賀村が合併してできた町である。町の名前は百間村の鎮守である姫宮神社の「宮」と、須賀村の鎮守である身代神社の「代」をそれぞれとって現町名とした。

遺跡は旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世、近世と連綿として確認できるが、弥生時代の遺跡は現在まで見つかってはいない。また、奈良・平安時代の集落も確認されていない。

2 宮代町の古代の遺跡

奈良・平安時代の遺跡は宮代町では 4 遺跡が確認されている。奈良時代の遺跡は東条原前遺跡のみである。8 世紀前半の北武蔵型坏 (5) が表採されている。この他、若干古くはなるが、東条原前遺跡で 7 世紀代の土師器の甕 (4)、山崎山遺跡で 7 世紀代の甕 (1、2) が表採された。

平安時代の遺跡は山崎遺跡と東条原宿屋敷遺跡、身代神社遺跡である。山崎遺跡からは 10 世紀代の須恵器系土師器の高台坏 (11)、東条原宿屋敷遺跡からは 9 世紀後半の台付甕 (6)、身代神社遺跡からは 9 世紀後半の須恵器の皿 (7) や高台坏 (9) が出土している。この他、古代の詳細な時期は不明だが、土師器の高台坏 (8) や甕 (10) が出土している。須恵器の皿 (7) は末野産である。

このように、宮代町では古代の遺跡は 4 遺跡のみで、しかも、僅かに遺物が数点出土したに過ぎない。しかし、宇東の西光院の阿弥陀三尊像は安元 2 年 (1176) に構築されていることから、阿弥陀三尊像や阿弥陀堂を造立することが出来るほどの財力を持った人物がいた可能性があり、その人物は太田荘の開発領主であった太田行尊の子孫と関わ

りがあったと推定される。それらのことから、西光院付近に平安時代の集落や太田氏の家人の屋敷があった可能性もあるが、不明といわざるを得ない。

発掘調査で確認できるのは、古代の前段階の古墳時代後期の7世紀では山崎山遺跡や東条原前遺跡で土師器の甕の口縁部が出土している。その前段階である6世紀代では、拠点集落であったと推定される道仏遺跡や山崎遺跡、古墳群であった姫宮神社古墳などが確認されている。

*1～3 山崎山遺跡、4～5 東条原前遺跡、6 東条原宿屋敷遺跡、7～10 身代神社遺跡、11 山崎遺跡

3 宮代町の遺跡の推移

宮代町で初めて確認できる旧石器時代の遺跡は前原遺跡や金原遺跡などである。両遺跡とも、岩宿Ⅱ期と砂川期の石器集中が検出されている。金原遺跡では次代の尖頭器期の石器集中も検出された。また、逆井遺跡からは細石器の石器集中と礫群がセットで検出されている。旧石器時代では計8遺跡から石器などが出土している。

縄文時代草創期では4遺跡、早期では21遺跡、前期では20遺跡、中期では25遺跡、後期では29遺跡、晩期では1遺跡と推移する。早期前半の撚糸文期の住居跡は前原遺跡のみであるが、遺物は金原遺跡や道仏遺跡、道仏北遺跡、地藏院遺跡などで多数出土している。早期前半の沈線文期の住居跡は金原遺跡や逆井遺跡で検出されている。早期後半条痕文期以降、後期中葉加曾利B式期まで、宮代町では多くの遺跡が検出されている。

後期後半では、山崎山遺跡で安行Ⅱ式土器が1点、晩期では道仏北遺跡で安行Ⅲd式が7点出土しているのみである。

弥生時代の遺跡は確認されていない。古墳時代前期の遺跡は4遺跡で、宿源太山遺跡、山崎山遺跡、地藏院遺跡、道仏遺跡で集落が検出されている。特に山崎山遺跡からは鍛冶工房が検出され、本地域の拠点的な集落であった可能性が高い。古墳時代中期では道仏遺跡、道仏北遺跡の2遺跡のみで集落が形成されていた。谷を挟み南北に集落が展開されていたようである。古墳時代後期では9遺跡で遺物が出土している。姫宮神社古墳群で土師器や埴輪が、藤曾根遺跡で埴輪片が、須賀遺跡や山崎山遺跡で土師器の甕が、金原東遺跡で土錘が、身代神社遺跡で滑石製の白玉が出土した。

一方、道仏遺跡、山崎遺跡で集落が検出されている。特に道仏遺跡では古墳時代中期から後期にかけての住居跡が約2,500平米の調査で約150軒の住居跡が検出された。また、土師器の焼成土坑と推定される土坑も数基検出された。

ここでは古墳時代前期の地域最古の製鉄遺跡の山崎山遺跡と古墳時代後期の道仏遺跡の発掘調査について説明する

4 地域最古の製鉄遺跡山崎山遺跡

山崎山遺跡は古墳時代前期の遺跡である。平成2年度に発掘調査が実施され、4世紀後

半の鍛冶工房や住居跡、井戸の他、5世紀初頭の超大型壺が出土した第3号住居跡などが検出された。

鍛冶工房や第5号住居跡、井戸からは鍛冶関連遺物が出土した。鍛冶工房からは小型の碗型鍛冶滓、粒状滓、鍛造剥片、砥石、ハンマーストーン、金床石片などの11種類30点以上の鍛冶遺物が出土した。羽口は転用羽口ではなく、専用羽口で断面が円形を呈する。専用羽口は珍しいもので本格的な鍛冶工房であったことが分かる。製品としては鉄錐と推定される棒状鉄製品や刀子様の鉄製品が出土していることから小型の鉄製品の製作場であったと推定される。

第3号住居跡出土の超大型壺は集落の象徴的な意味を持つ土器の可能性があると共に、集落規模は大きくないが鍛冶工房を持つという特殊な集落の性格から超大型壺を持つに至った可能性があるとして福田聖氏は報告書のまとめで述べている。

山崎山遺跡の鍛冶工房を持つ集落の存在は、少なくとも鍛冶集団を率いることが出来る勢力の存在があったことを示すことは間違いないと推定される。

5 道仏遺跡の発掘調査

道仏遺跡は平成9年度、平成20年度、平成22～23年度、平成25～26年度、平成26年度と5回に渡り発掘調査が実施され、合計約150軒の住居跡が発掘されている。舌状台地の先端部の島状の部分のみに集落が形成された。5世紀中葉から6世紀中葉の集落である。

古墳時代中期の集落は島状の台地の東側を中心に立地し、古墳時代後期は西側へも拡張し島状の台地全体に広がったようである。

報告書が完成していないため、詳細は不明だが、5世紀中葉から6世紀中葉にかけて、大集落が形成されるが、7世紀以降集落が消滅することは、河川の変遷や地域の権力者の衰退なども合わせ考える必要がある。

6 西光院阿弥陀三尊像

西光院の阿弥陀三尊像は安元2年(1176)に造立されたものである。関東地方定朝様式の典型作の仏像といわれ、大正3年に旧国宝(重要文化財)に指定された。阿弥陀三尊は昭和27年まであった阿弥陀堂に安置されていた。

阿弥陀堂は室町時代の建物と伝わる。3間×4間の建物である。大正12年の関東大震災で破損した阿弥陀如来像を修理した際には後頭部の墨書に長禄2年(1458)に修理したことが記されており、阿弥陀堂もこの時、再建された可能性が高い。勿論、それ以前にも阿弥陀三尊像を安置する阿弥陀堂はあったと考えられる。阿弥陀堂の正面には大きな谷が入り、比高差3.2mを数える。大きな谷を池と想定すると、白水阿弥陀堂などのような浄土庭園が広がっていた可能性もある。このような、浄土庭園を持つような寺院を建立できたのは、相当な勢力がいたことの証明であるだろう。なお、大きな谷の谷頭に

は戦前まで弁天池と呼ばれる円形の人工的な池が存在した。

太田荘は奈良時代の武蔵国埼玉郡太田郷に開発領主である太田氏により開発された荘園である。一説には院政期には八条院領であったともいわれる。

西光院阿弥陀三尊像の造立は浄土庭園を持つような寺院を建立することができる勢力の存在が必要といえる。この時代に、この地域でそれを可能にできる勢力は太田荘を開発した太田行尊の子孫やその関係者と考えるのが妥当ではないか。

7 まとめ

宮代町の古代については古墳時代前期からまとめると、4世紀後半に鍛冶工房を持つ山崎山遺跡の集落が出現し、5世紀初頭まで存続する。道仏遺跡では4世紀後半から遺構が確認されるようになり、5世紀中葉から6世紀中葉にかけて大集落が形成される。5世紀中葉には道仏遺跡と谷を挟んで北側に対峙する道仏北遺跡でも住居跡が検出されている。両遺跡とも谷の入り口付近に位置する。道仏遺跡の谷を隔てた南側600mには姫宮神社古墳がある。試掘調査では6世紀前半の朝顔形埴輪が出土した。このように、この時期、道仏地区周辺は本地域の拠点的な集落であったようである。

7世紀以降、住居跡を伴う集落は確認できないが、7世紀代では山崎山遺跡や東条原前遺跡、8世紀代では東条原前遺跡、9世紀から10世紀では身代神社遺跡、東条原宿屋敷遺跡、山崎遺跡で僅かに遺物が確認できるに止まる。それ以降は遺物1点さえ出土していない。

12世紀後半、西光院の阿弥陀三尊像が造立される。安元2年(1176)に造立されたものである。この時期の遺跡は確認されていないが、少なくとも京都の定朝様式の伝統を知る仏師がいて、仏像の製作を発注できるような大きな勢力が近くに住んでいたことは間違いない。

平成28年度第1回東部地区文化財担当者会

第1回例会事例報告

宮代町の 古代の遺跡

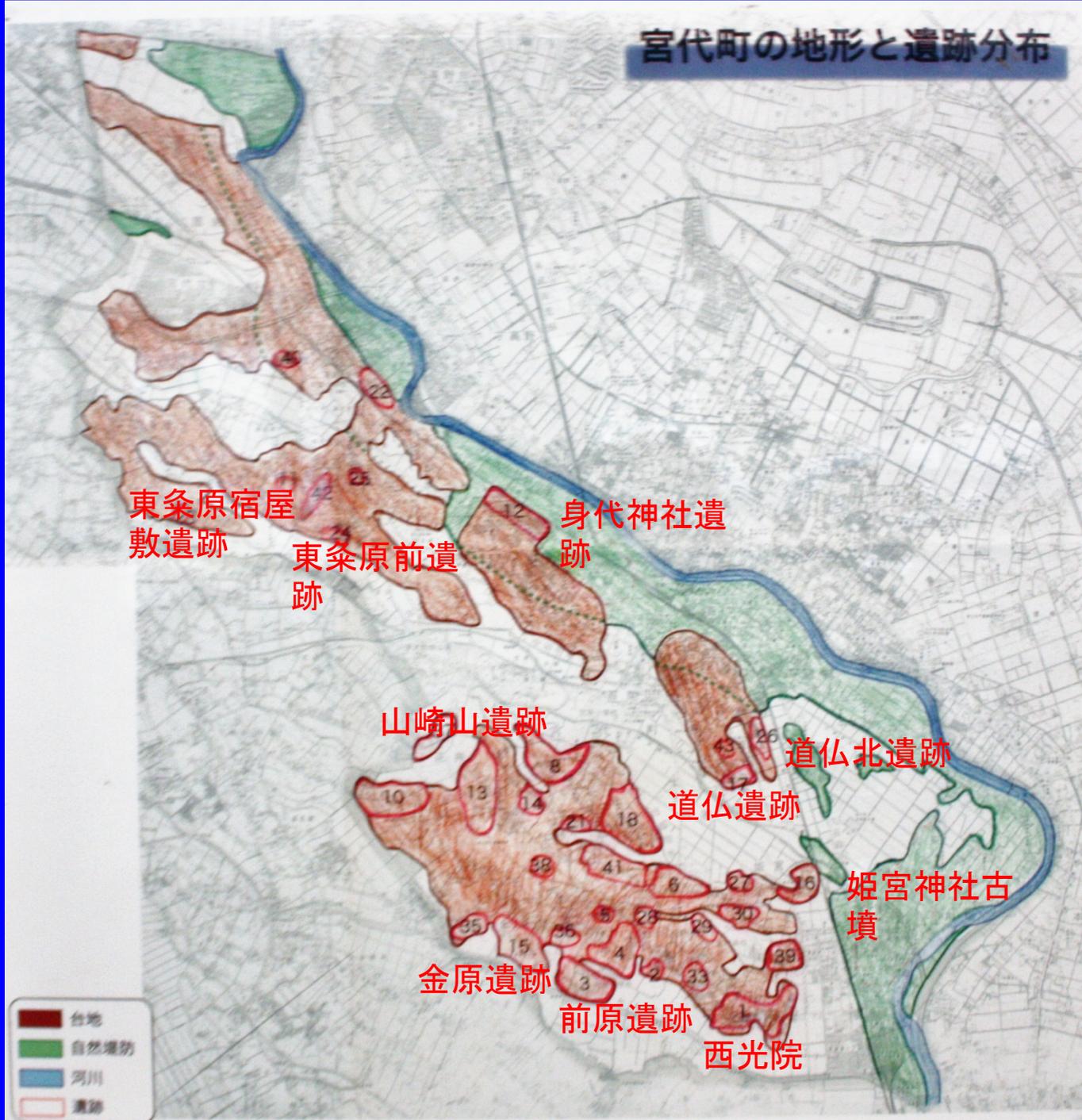
宮代町郷土資料館

文化財保護担当 河井伸一

宮代町の位置



宮代町の地形と遺跡分布



宮代町の古代の遺跡

- 奈良時代の遺跡
東条原前遺跡のみ
- 平安時代の遺跡
山崎遺跡、東条原宿屋敷遺跡、
身代神社遺跡の3遺跡

東条原前遺跡出土土師器



- 宮代町唯一の奈良時代の土器。8世紀前半
- 北武蔵型坏

身代神社遺跡出土 土師器・須恵器

- 上が 表。
- 右が 裏。
- 上段が須恵器で上段右が末野産。9世紀後半
- 下段が土師器。
古代(時期不明)



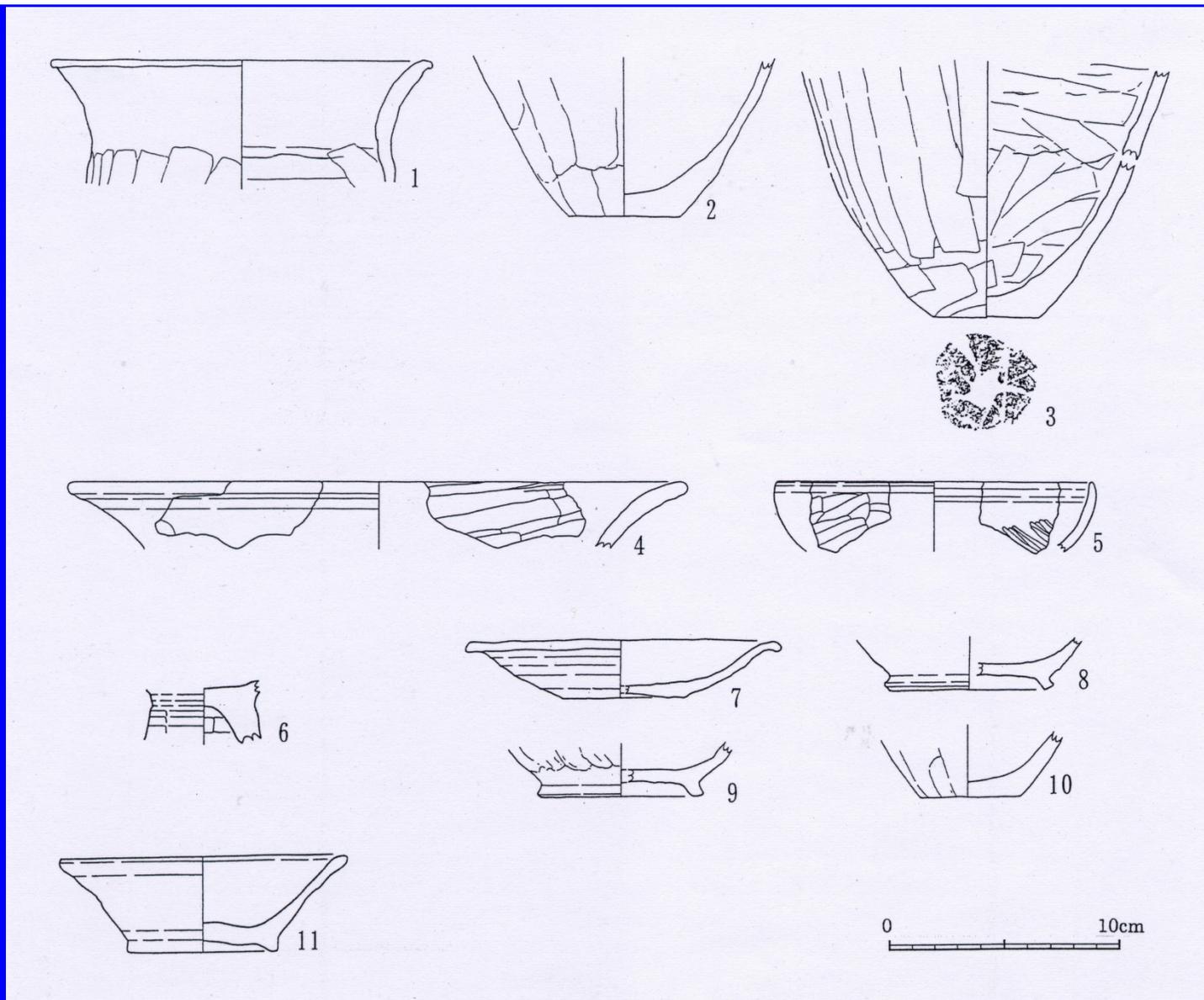
東条原宿屋敷遺跡 台付甕



9世紀後半



山崎遺跡出土須惠器系土師器
平安時代 10世紀



1~3山崎山遺跡、4~5東条原前遺跡、6東条原宿屋敷遺跡、7~10身代神社遺跡、11山崎遺跡

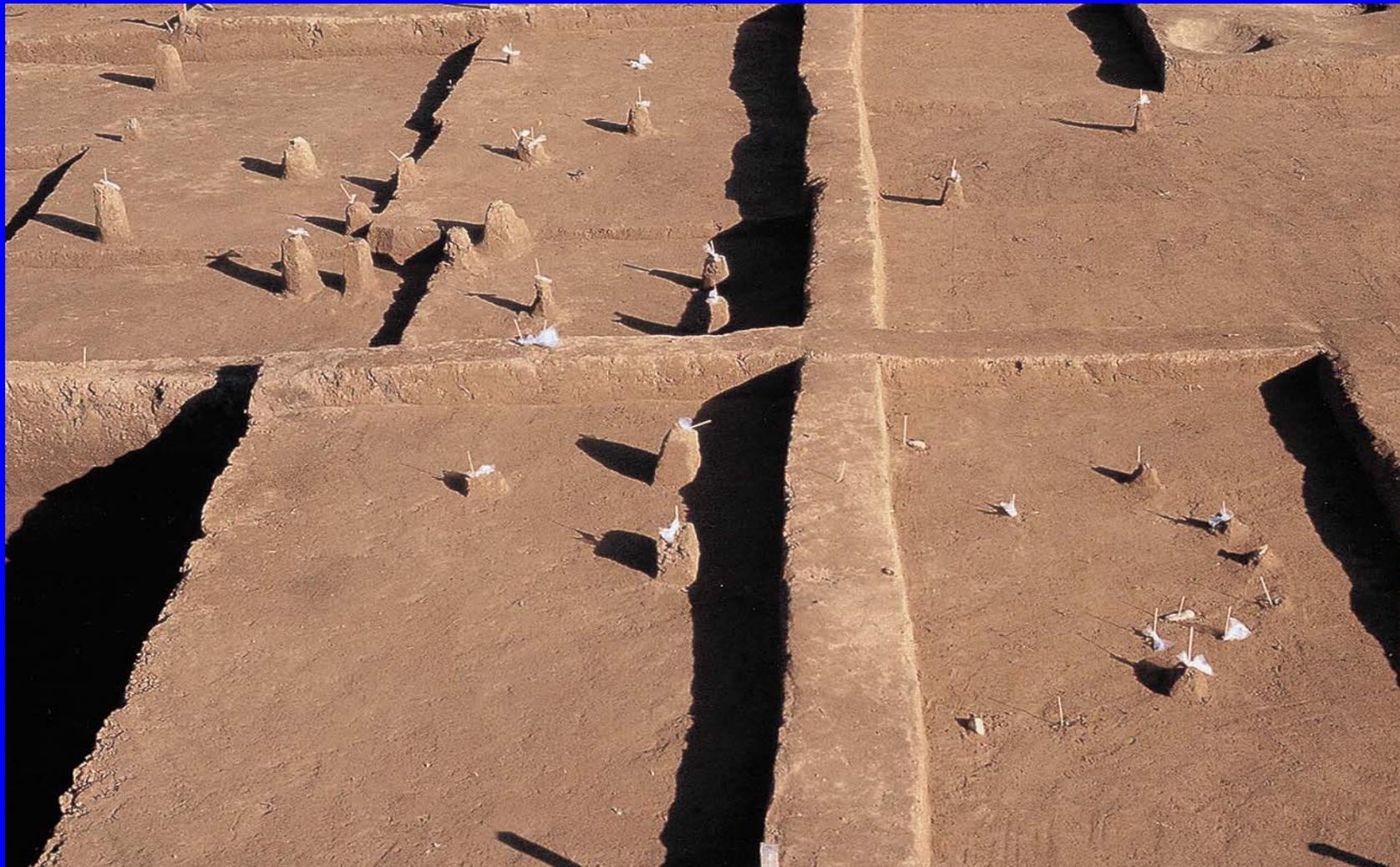
宮代町の遺跡の推移

- 旧石器時代 8遺跡
- 縄文時代草創期 4遺跡
- 縄文時代早期 21遺跡
- 縄文時代前期 20遺跡
- 縄文時代中期 25遺跡
- 縄文時代後期 29遺跡
- 縄文時代晩期 1遺跡
- 弥生時代 0遺跡
- 古墳時代前期 4遺跡
- 古墳時代中期 2遺跡
- 古墳時代後期 9遺跡

旧石器時代

時代	年代	できごと
岩宿Ⅱ期	約20,000年前	前原遺跡、金原遺跡で岩宿Ⅱ期のナイフ形石器が作られる。
砂川期	約17,000年前	前原遺跡、金原遺跡で砂川期のナイフ形石器が作られる。
細石器 尖頭器 期	約13,000年前	逆井遺跡で細石刃が作られる。金原遺跡で尖頭器が作られる。
縄文 草創期	約12,000年前	宮代町最古の土器(微隆起線文土器)の出現(前原遺跡)
縄文時 代		土器・弓矢が作られ始まる

前原遺跡の第2号石器ブロック



前原遺跡 旧石器時代
第2石器ブロック(集中) 岩宿II期

前原遺跡の第1号石器ブロック



前原遺跡(現在の前原中学校)
昭和54~55年発掘調査実施

石器を製作した場所(第1
号石器ブロック)砂川期



第2号石器ブロック出土石器(岩宿II期)



第1号石器ブロック出土石器(砂川期)

金原遺跡旧石器時代石器ブロック配置図



金原遺跡の石器ブロックと礫群



第2号石器ブロックと第3号礫群 砂川期

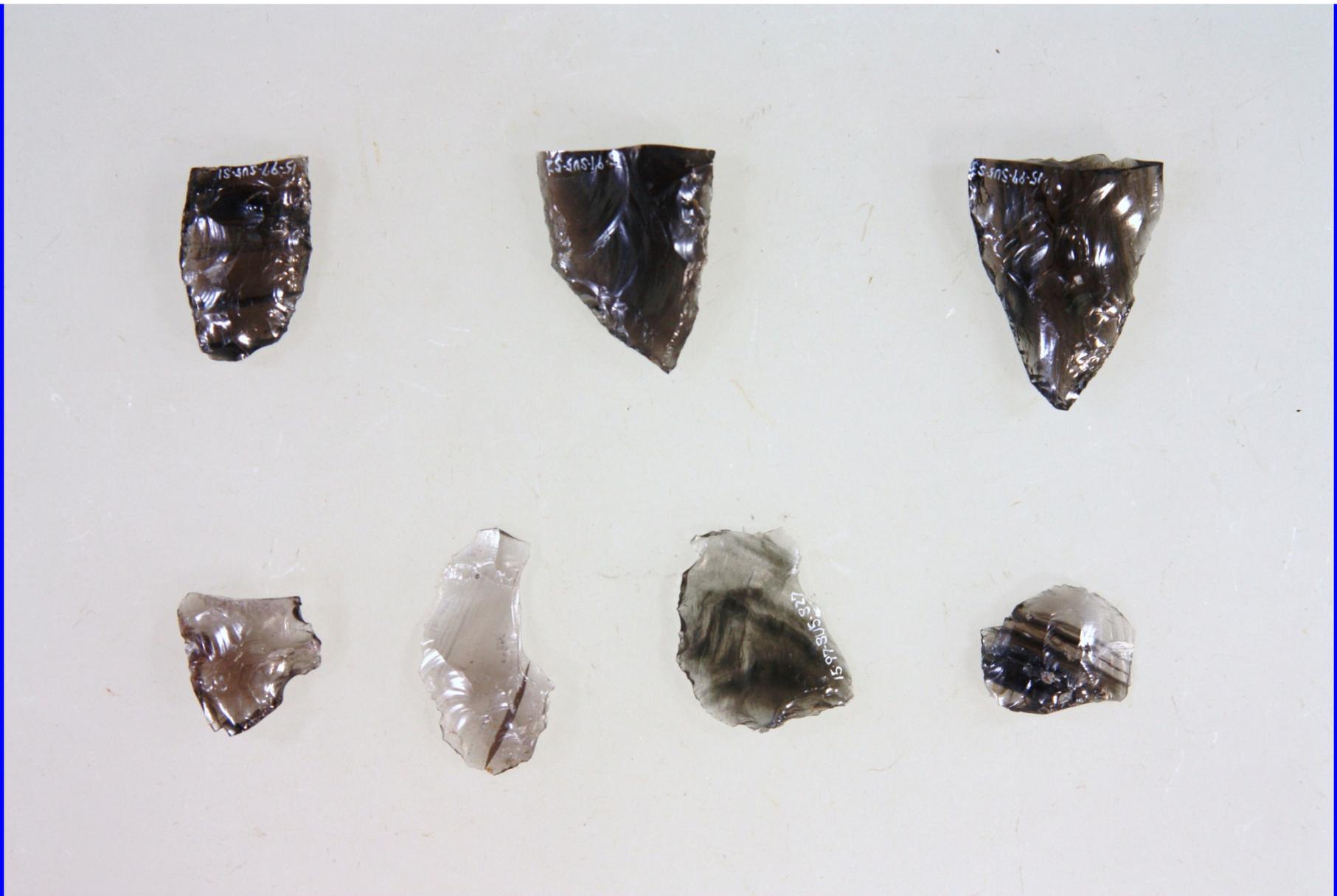


第2号石器ブロック出土遺物(砂川期)

金原遺跡尖頭器ブロック

第5号石器ブロック





金原遺跡尖頭器ブロック出土石器

逆井遺跡の細石刃ブロック



逆井遺跡細石刃と細石刃核



- 左が細石刃。右が細石刃核。細石刃はカミソリの様な柄に複数の刃をはめて使う石器。
- 細石刃核は細石刃を作り出す石器。これが発見されると、石器の製作場であることが分かる。
- 埼玉県東部地区では唯一の遺跡。

縄文時代

時代	年代	できごと
縄文早期	約8,000年前	前原遺跡で撚糸文期の集落がえられる。
縄文前期	約5,500年前	道仏北遺跡で黒浜期の集落がえられる。縄文海進ピーク。
縄文中期	約4,000年前	地蔵院遺跡や金原遺跡で加曾利E式期の集落がえられる。
縄文後期 初頭	約3,900年前	金原遺跡、山崎山遺跡、藤曾根遺跡、前原遺跡で称名寺式期の集落がえられる。
縄文後期 前半	約3,700年前	金原遺跡・山崎遺跡・藤曾根遺跡・山崎山遺跡で堀之内式期の集落がえられる。
縄文後期 中葉	約3,500年前	東の西光院貝塚で加曾利B式期の貝塚が形成される。山崎南遺跡、前原遺跡、山崎山遺跡で加曾利B式期の集落がえられる。

宮代町最古の土器



- 上は縄文草創期の最も古い土器。微隆起線文土器。埼玉県東部地区では唯一の土器（前原遺跡）



前原遺跡 縄文時代早期撚糸文期の住居跡



前原遺跡 繩文時代早期撚糸文土器



前原遺跡 縄文時代早期
の石偶

縄文時代前期から中期の土器

(縄文時代前期)

- ①黒浜式土器(道仏北遺跡)
- ②諸磯式土器(前原遺跡)
- ③浮島式土器(前原遺跡)

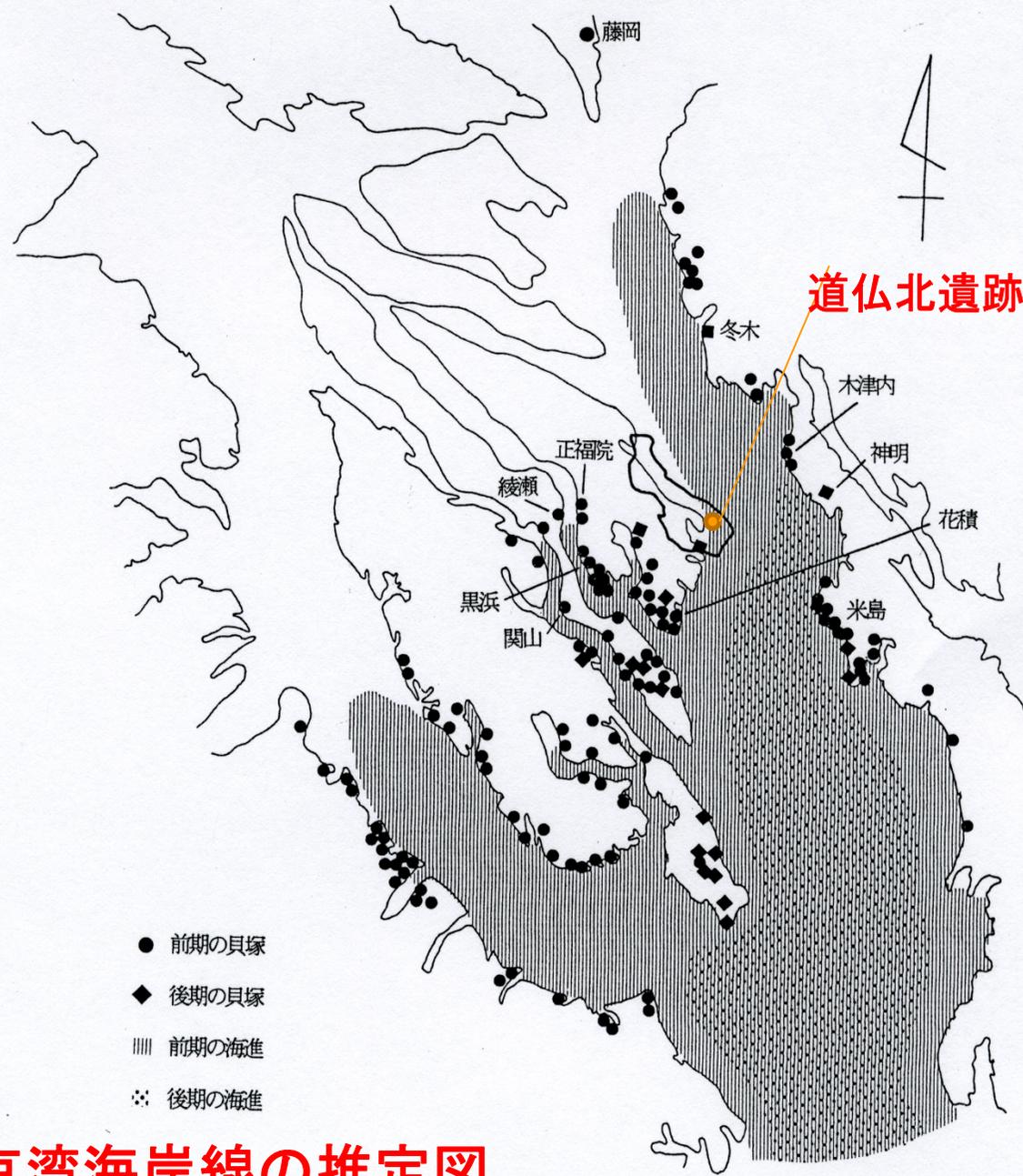
(縄文時代中期)

- ④勝坂式土器(金原遺跡)
- ⑤加曾利E式土器(地蔵院遺跡)
- ⑥加曾利E式土器(金原遺跡)
- ⑦加曾利E式土器(金原遺跡)
- ⑧曾利式土器(地蔵院遺跡)

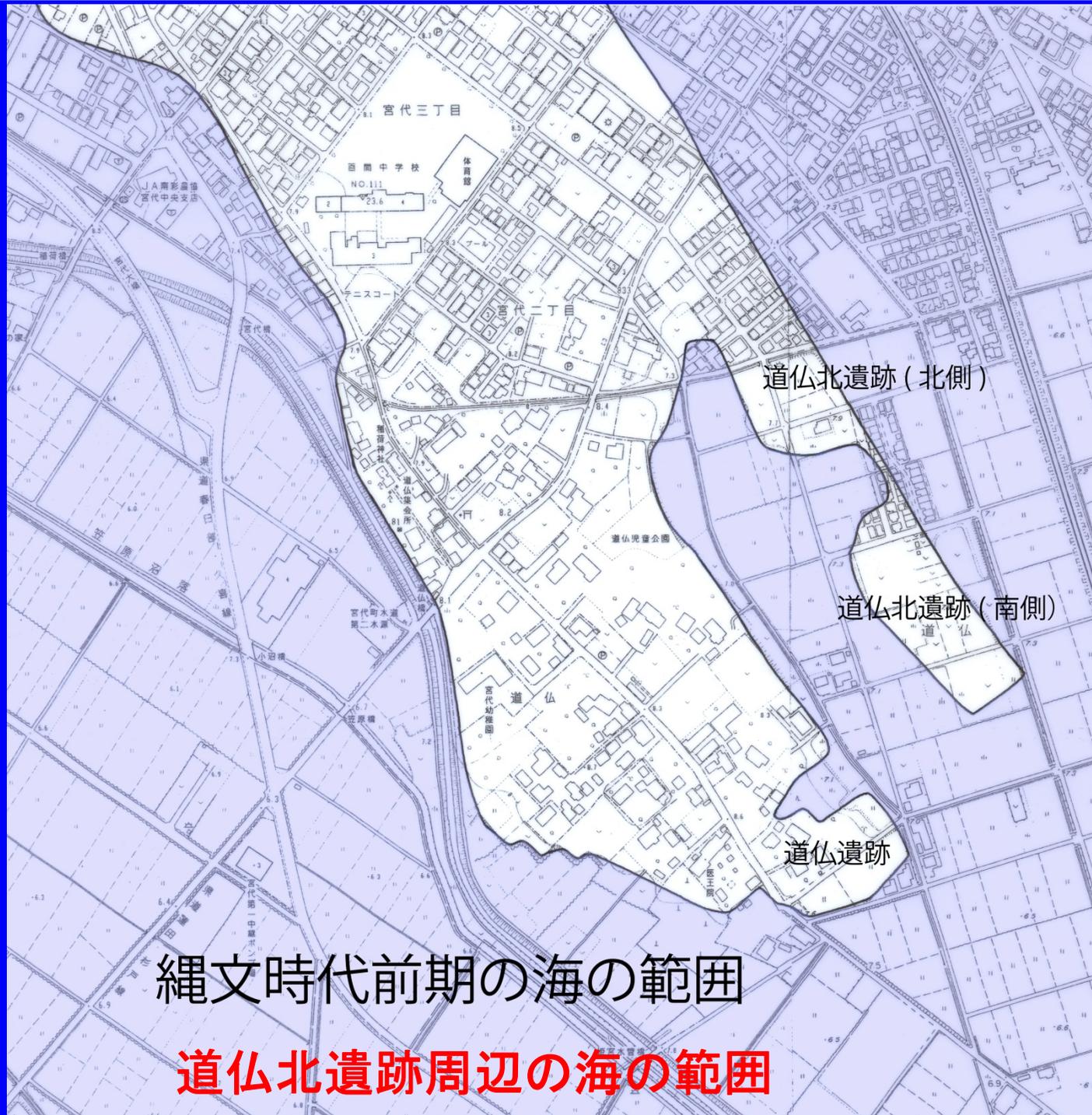




地蔵院遺跡 縄文時代前期の住居跡



奥東京湾海岸線の推定図



縄文時代前期の海の範囲

道仏北遺跡周辺の海の範囲



道仏北遺跡 航空写真 平成19年度

道仏北遺跡(H18・19)

道仏区画整理事業

縄文前期黒浜式期の住居跡。四角い住居跡



この時期は最も東京湾が内陸に進入した時期であったため、海辺であった。

四角い住居跡が丸い住居跡と重なる。四角住居跡が黒浜期。丸い住居跡が諸磯期



地蔵院遺跡 縄文時代中期後半の住居跡(加曾利E式期)

縄文時代後期の土器

・宮代町で最も遺跡の数が
増える時期

1, 2, 3, 7は金原遺跡(はらっぱーく宮代)。4は前原遺跡(前原中学校)、5, 6は藤曾根遺跡、8は山崎山遺跡(トクホン工場)



山崎遺跡(H18-19)

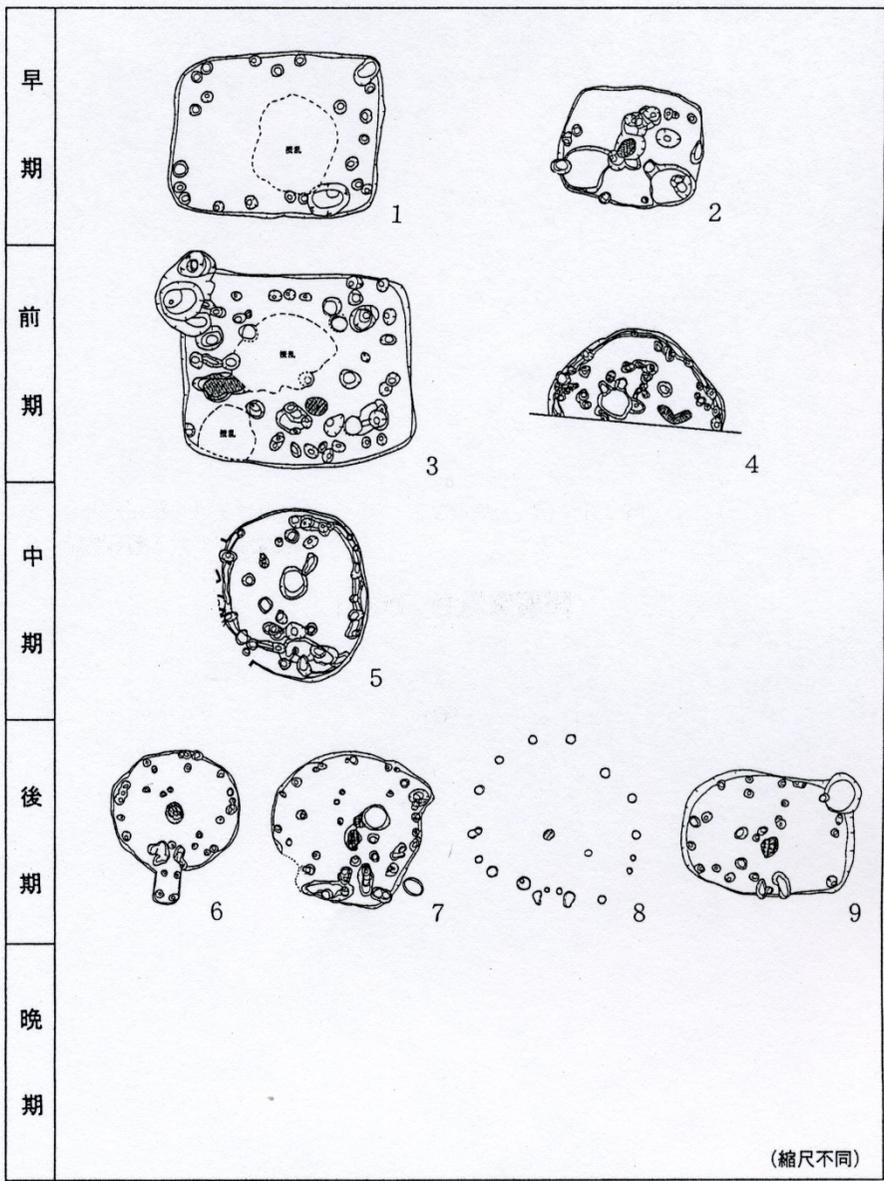


上が柄鏡形住居跡(堀之内式期)、右上が伏甕。底部に穴があいておる。右が、住居跡から出土した建築部材。材木は栗

金原遺跡(H8~11)

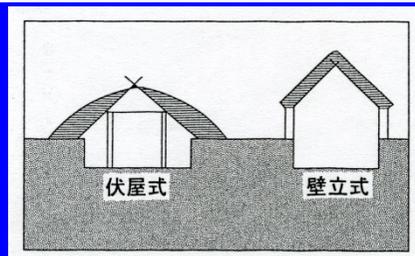


上が柄鏡形住居跡、
下が埋設土器。縄文時代後期(称名寺式期)の大集落

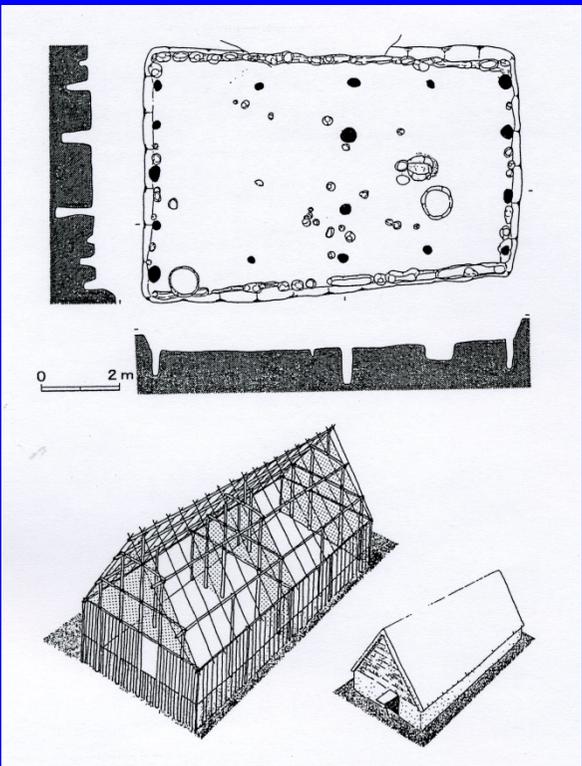


- 1 前原遺跡・第5号住居跡 2 地藏院遺跡・平成元年度第1地点第5号住居跡
- 3 地藏院遺跡・平成元年度第1地点第4号住居跡
- 4 地藏院遺跡・昭和63年度第7号住居跡
- 5 地藏院遺跡・昭和63年度第3・4住居跡 6 金原遺跡・第7号住居跡
- 7 金原前遺跡・第1号住居跡 8 星谷遺跡・第1号住居跡
- 9 前原遺跡・第7号住居跡

(縮尺不同)



伏屋式と壁立式



打越遺跡88号住(富士見市) 復元図

宮代町縄文時代住居跡変遷図

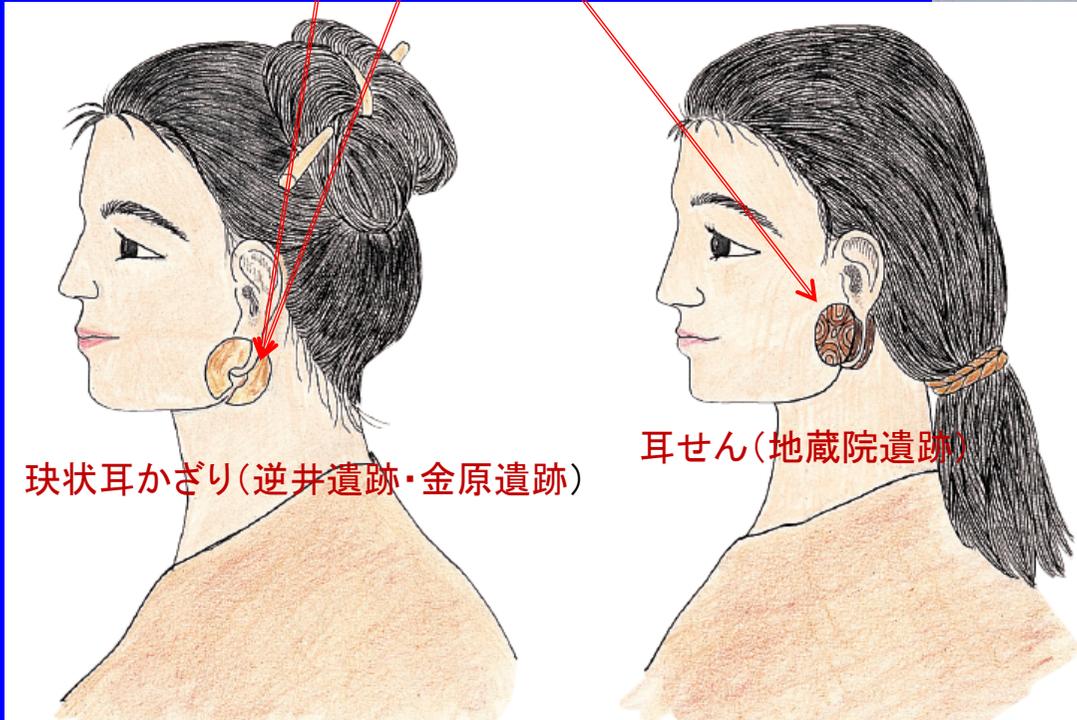
四角から丸・柄鏡形へ



町内(地蔵院・金原・山崎南・逆井)遺跡出土のアクセサリ



土錘の使用状況(金原遺跡)



玦状耳かざり(逆井遺跡・金原遺跡)

耳せん(地蔵院遺跡)

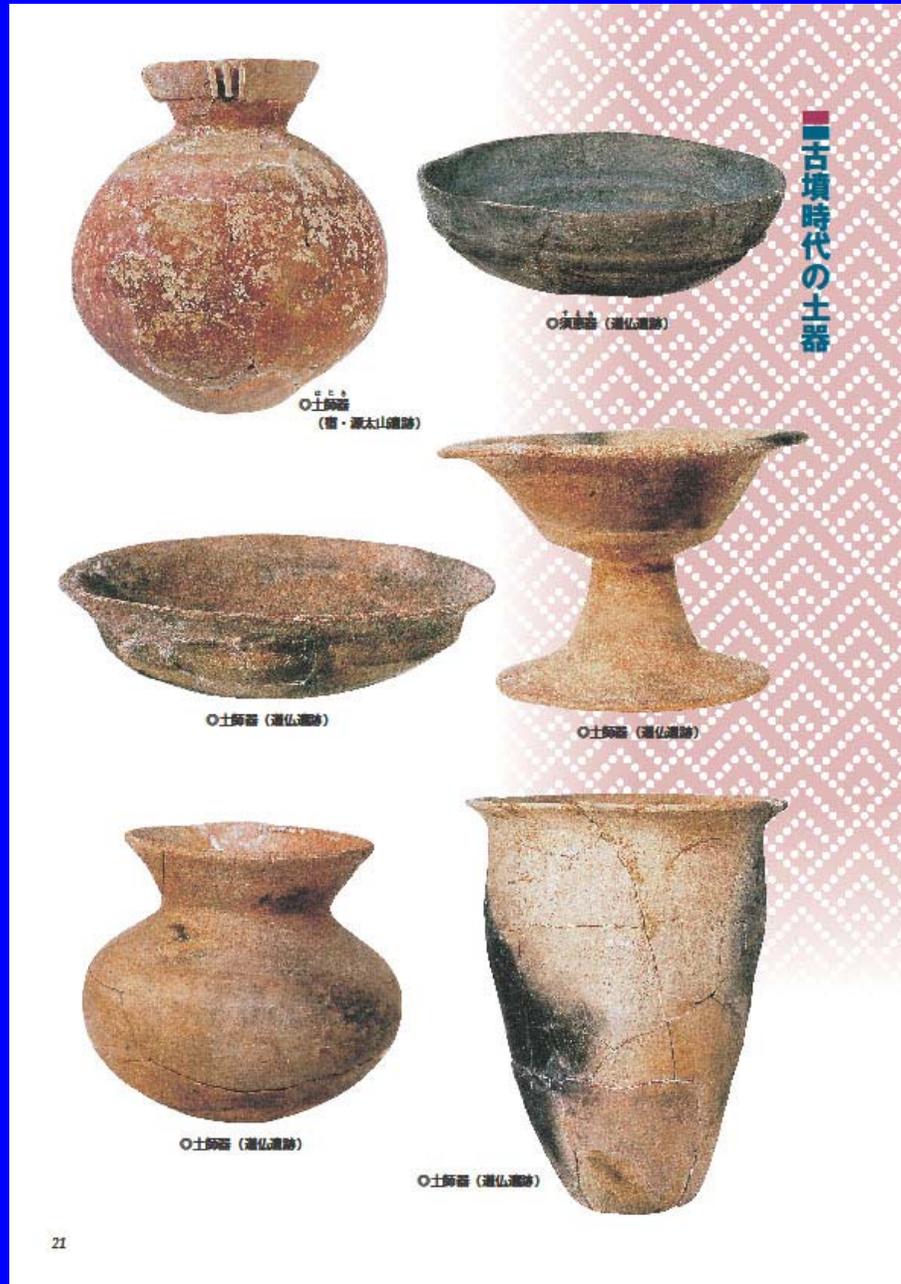


金原遺跡出土土錘

古墳時代

年代	年代	できごと
古墳時代 前期初頭	4世紀初 頭	宿源太山遺跡で住居跡や溝が発見される。
古墳時代 前期終末	4世紀後 半	山崎山遺跡で集落や鍛冶工房がつくられる。
古墳時代 中期初頭	5世紀初 頭	山崎山遺跡で超大型壺が出土した住居跡がつくられる。
古墳時代 中期後半	5世紀中 葉	道仏遺跡や道仏北遺跡で集落が営まれる。
古墳時代 後期前半	6世紀前 半	道仏遺跡や山崎遺跡で集落が営まれる。特に道仏遺跡は大規模なこの地域の中心的集落であったようである。姫宮神社古墳群も造られる。

古墳時代の遺物



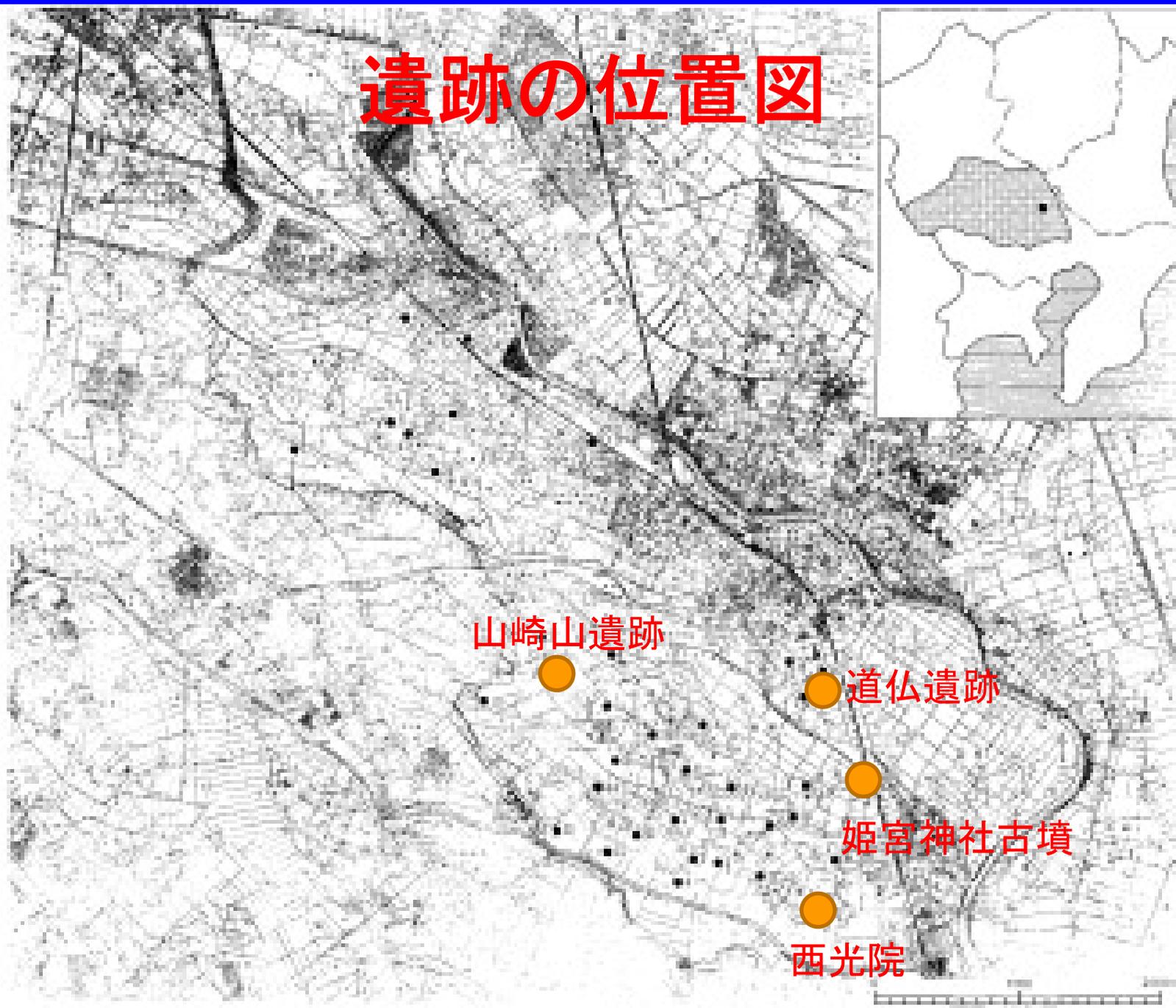
上は宮代町唯一の勾玉。
道仏北遺跡(H18・19)
で発見された。

左は古墳時代前期から
後期の土師器と須恵器。
宿源太山遺跡、道仏遺
跡から出土した。

山崎山遺跡の鍛冶工房
道仏遺跡の大集落
西光院阿弥陀三尊像

考古(古代)部会より依頼のあった課題

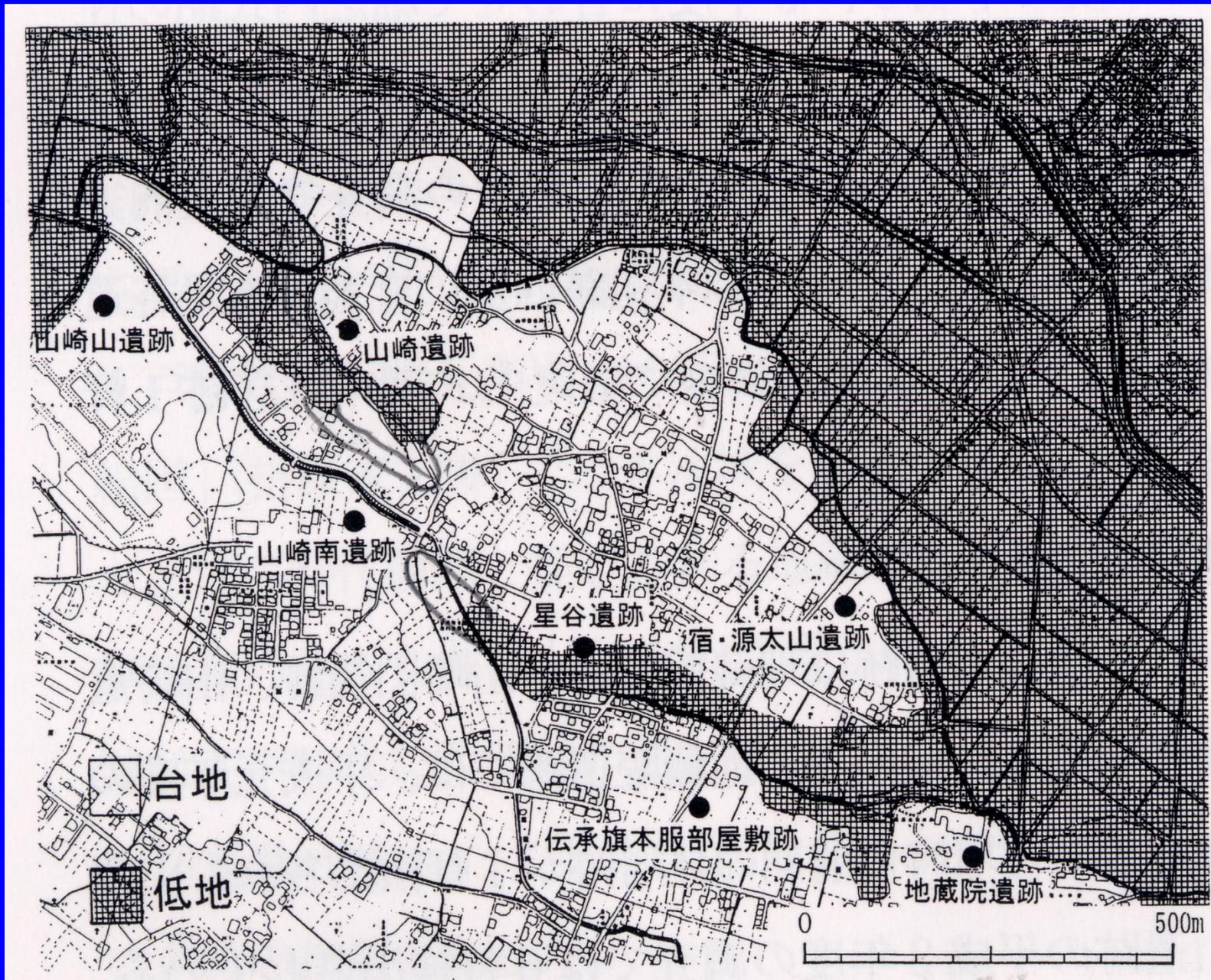
遺跡の位置図



地域最古の製鉄遺跡山崎山遺跡

- 平成2年度の発掘調査により鍛冶工房検出。
- 4世紀後半の鍛冶工房と住居跡、井戸
- 5世紀初頭の住居跡
- 専用羽口を持つ鍛冶工房の出現
- 第3号住居跡の超大型壺。集落の象徴。
- 鍛冶集団を持つことが出来る勢力の存在。

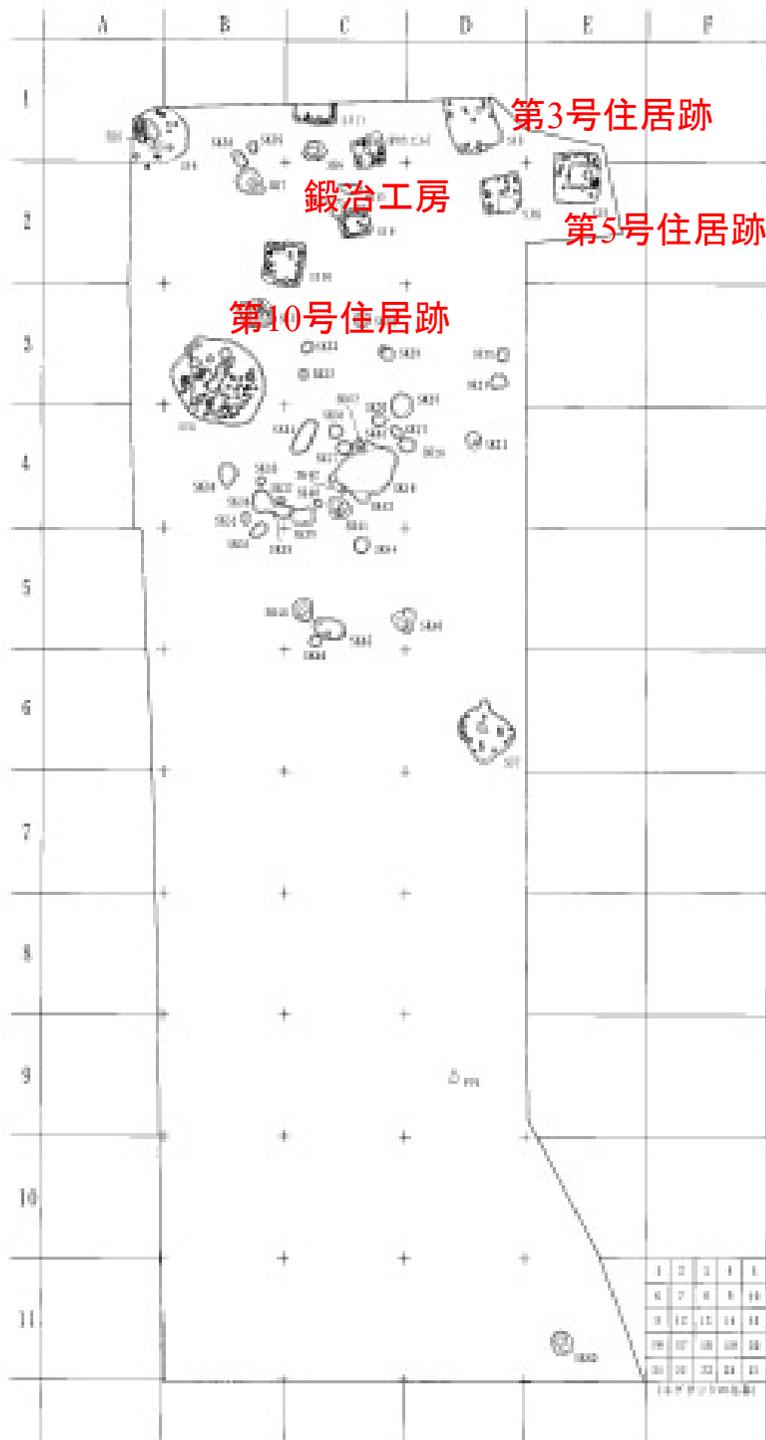
山崎山遺跡周辺の地形





第9回 山崎山遺跡発掘調査地点

山崎山遺跡地点図



山崎山遺跡全測図

鍛冶工房跡(山崎山遺跡)



古墳時代前期終末の鍛冶工房。埼玉県で最古の鍛冶工房。多量の鉄滓や鍛造剥片が出土。

竪穴式の建物跡

郷土資料館内で形どりを復元展示

鉄挺は朝鮮半島産

鍛冶工房から出土した遺物



上が土師器

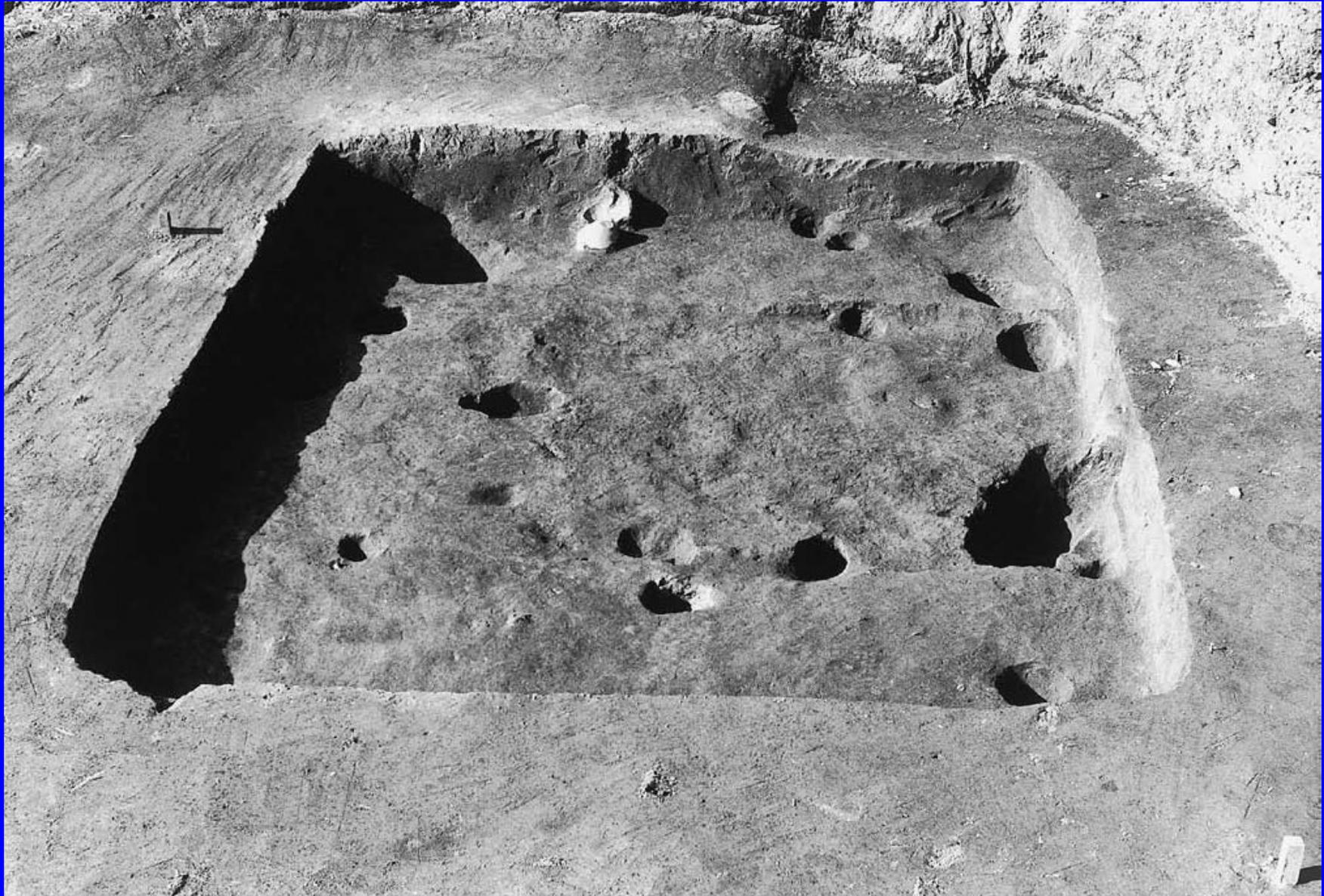
右が棒状鉄製品や鉄滓





- 左上が専用羽口
- 右上がハンマーストーン
- 左が砥石

山崎山遺跡第5号住居跡



山崎山遺跡第10号住居跡





山崎山遺跡第10号住居跡 出土土師器

山崎山遺跡井戸



山崎山遺跡第3号住居跡



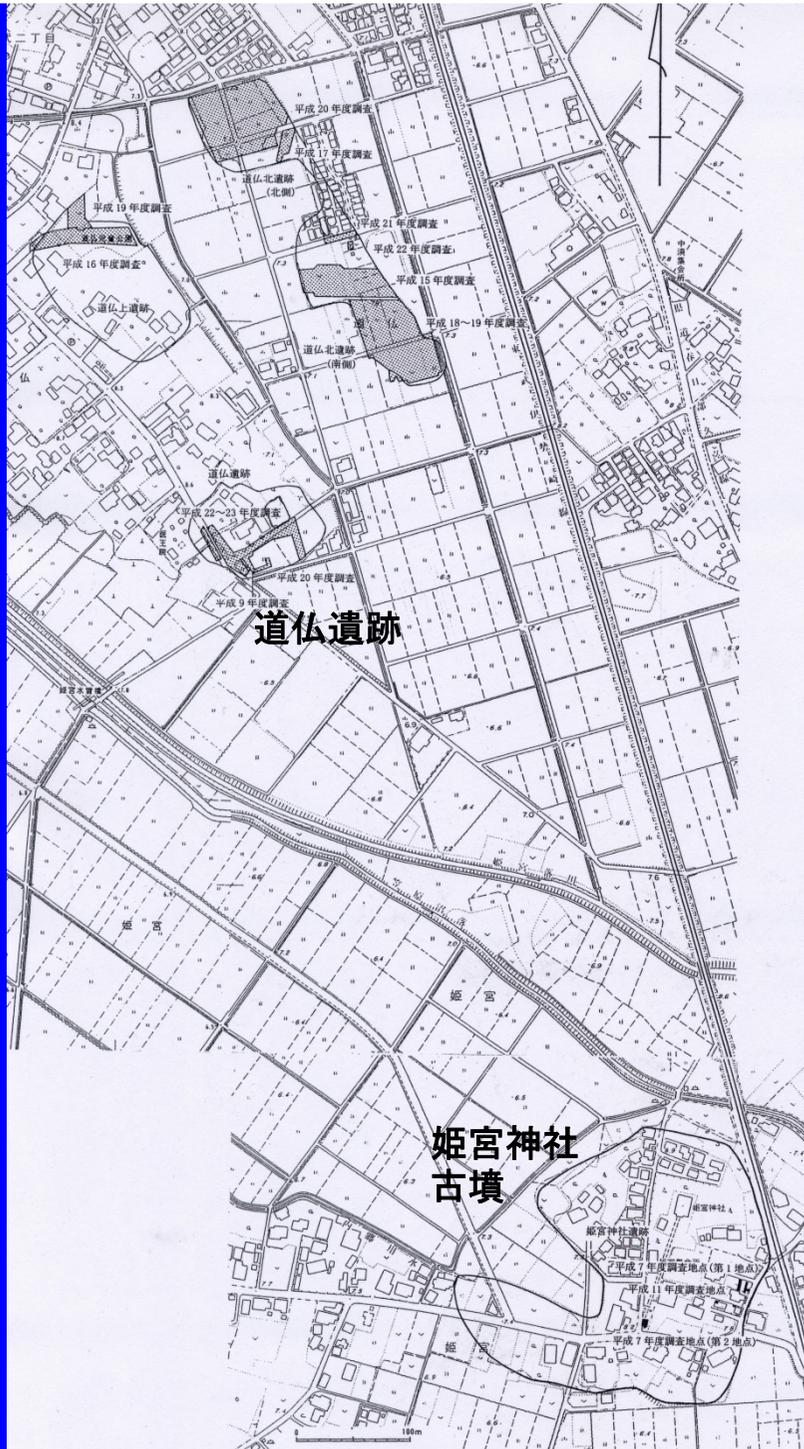
古墳時代中期初頭



超大型壺
第3号住居跡
古墳時代中期初頭

道仏遺跡の発掘調査

- 5世紀中葉～6世紀終末までの大集落
- 現在までに約150軒の住居跡が確認されている。
- 島状の台地にのみ集落が確認される。
- 埼玉県東部地区でも中心的な集落。
- 埼玉古墳群や姫宮神社古墳との関係。

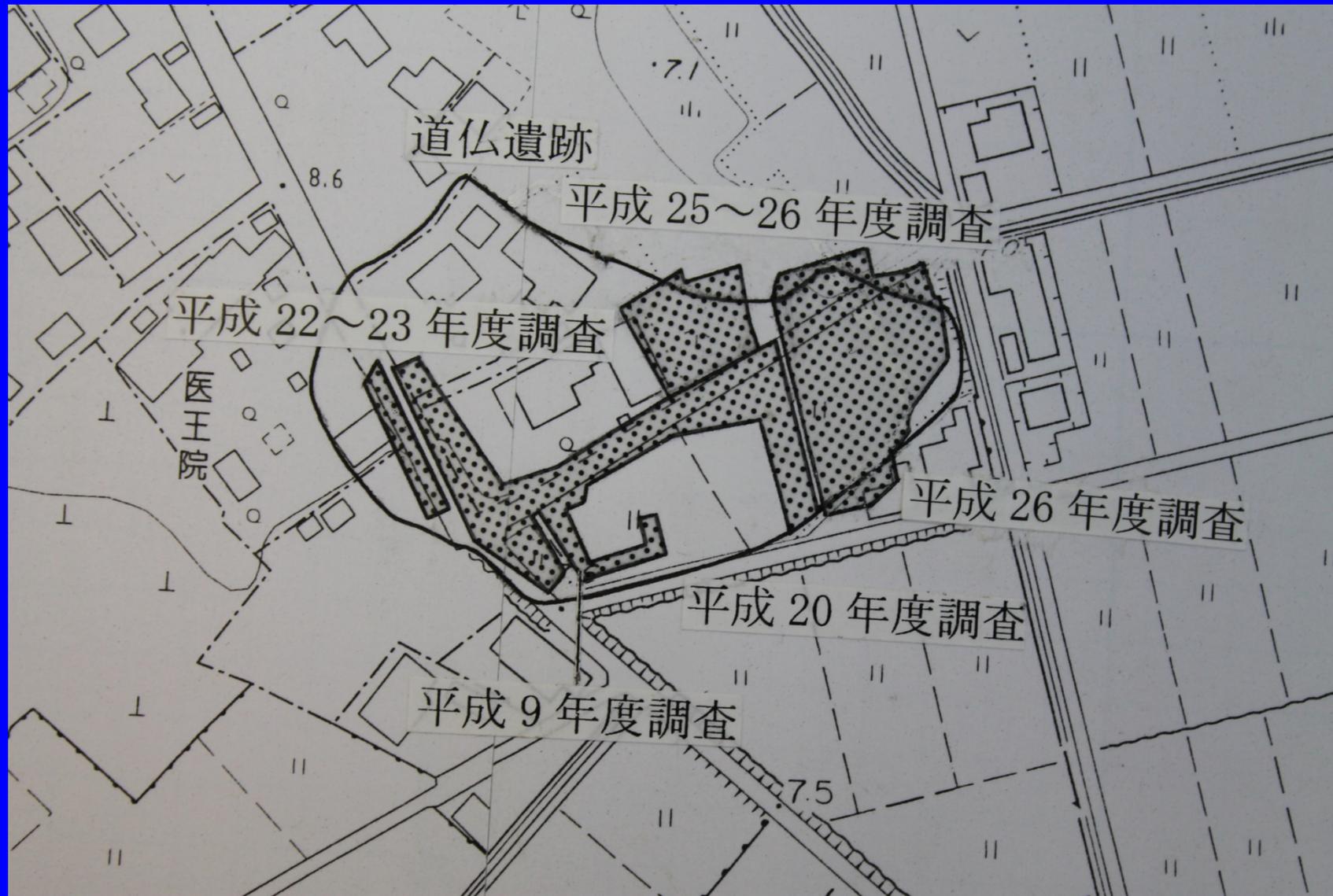


道仏遺跡と 姫宮神社古墳

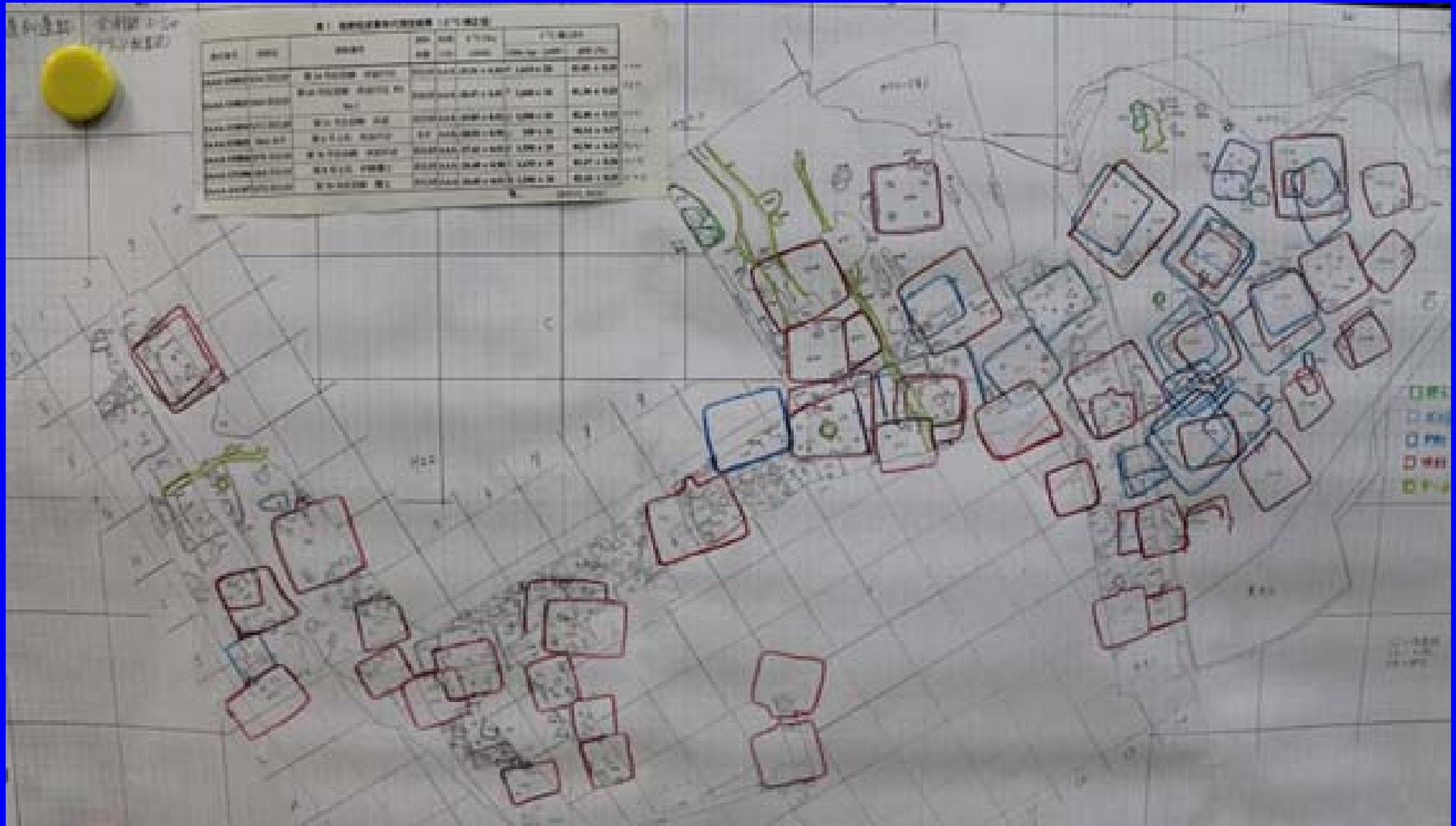


道仏遺跡周辺の台地と低地

道仏遺跡調査地点図



道仏遺跡全測図



緑が縄文時代、青が古墳時代中期、赤が古墳時代後期

道仏遺跡航空写真(平成26年度)





航空写真 南(平成26年度)第117・134・121・120住



航空写真 東(平成26年度)第55・116・115・134住



調査区全景(平成26年度)



遺構確認状況(平成26年度)



第120号住居跡



第135号住居跡



第135号住居跡 カマドと煙道



- 第135号住居跡カマド 支脚(高坏の利用)



- 第135号住居跡カマド 支脚(高坏の利用)



第115号住居跡



第115号住居跡カマド 左は甑(全穴と一穴)



第115号住居跡カマド 支脚



第55・123号住居跡



第125・126・118号住居跡



第139号住居跡



第139号住居跡 カマド 支脚



第143号住居跡



第143号住居跡 炭化材 BP1,640±20



第143号住居跡カマド 埋設土器



第143号住居跡 出土土器



第143号住居跡 ベンガラ 坏 出土状況



第90号土坑最上層 土玉出土状況



第92号土坑 出土状况 土器烧成穴？



第92号土坑 出土状况 土器烧成穴？



第193号土坑 土器烧成坑？



D-5 土師器 出土状況



第138号住居跡 管玉



第140号住居跡 出土 須恵器 甕



平成22～23年度
第10・11トレンチ
全景



平成22～23年度
第12トレンチ
全景



平成22～23年度
第14トレンチ
全景



平成22～23年度
第15トレンチ
全景



第2号住居跡



第25・31号住居跡



第75号住居跡



第75号住居跡カマド



第75号住居跡カマド



第75号住居跡カマド



第78・95号住居跡



第77・79号住居跡



第8号土坑 炉跡を伴う土坑



第8号土坑

出土土師器

古墳時代前期終末
(4世紀後半・鍛冶
工房と同じ時代)



第49号住居跡(古墳時代中期の住居跡)



第17・19号住居跡

姫宮神社古墳



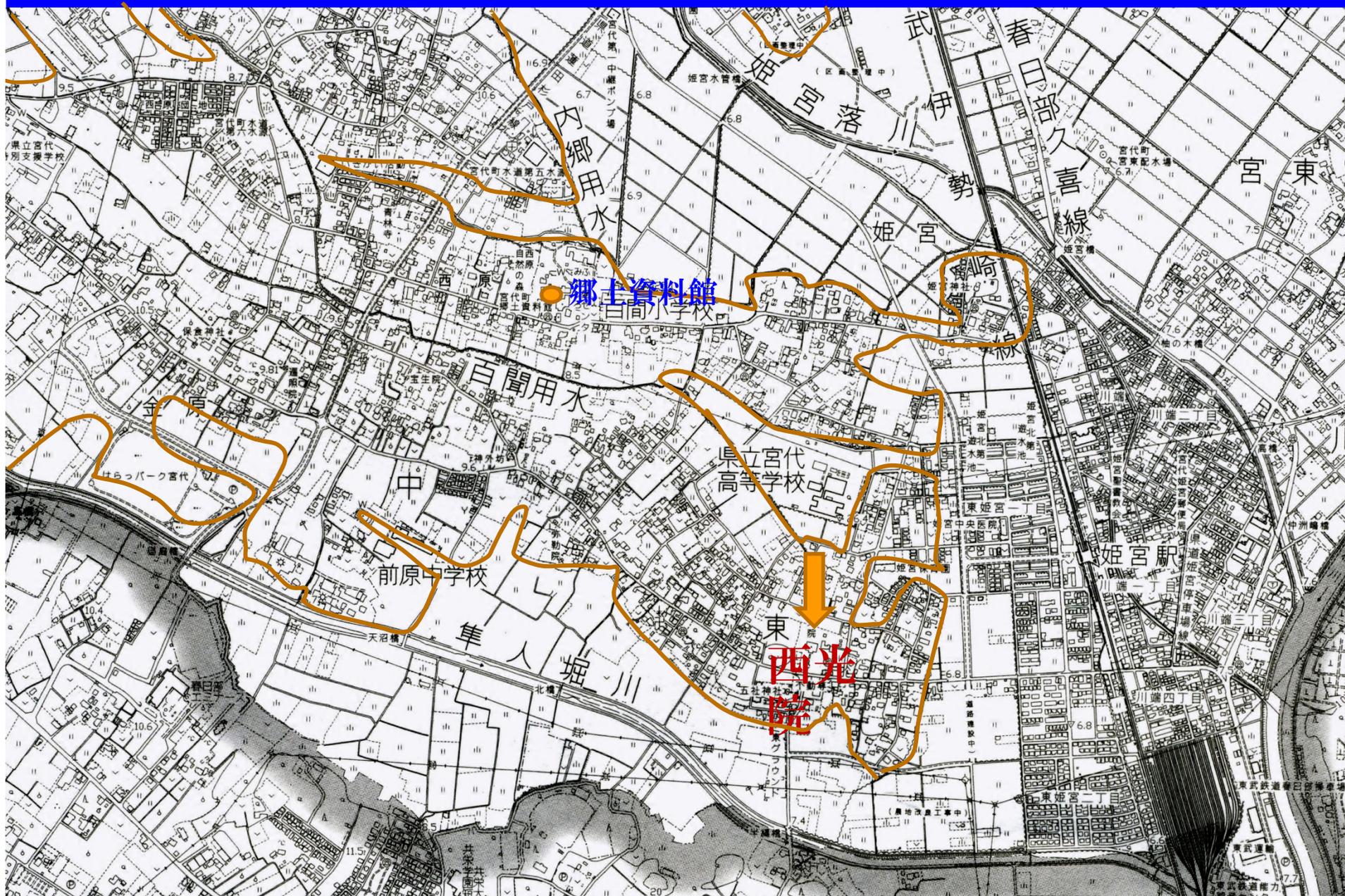
6世紀前半の朝顔形埴輪



発掘調査が行なわれた道仏遺跡に住む豪族の墓域が姫宮神社古墳群ではないか？

西光院阿弥陀如来像

- 西光院の伝説、奈良時代行基により開山
- 阿弥陀三尊像は関東地方の定朝様式の基準となる作品
- 阿弥陀三尊像は安元2年(1176)の造立
- 太田庄は11世紀後半までには成立
- 太田庄開発領主の太田行尊やその孫の小山政光の子孫との関係。一説には後白河院と関係のある八条院領とも。
- 戦国時代には岩槻太田氏や後北条氏の祈願寺。
- 江戸時代は徳川家より50石の朱印地。徳川家康画像を祀る東照宮もある。

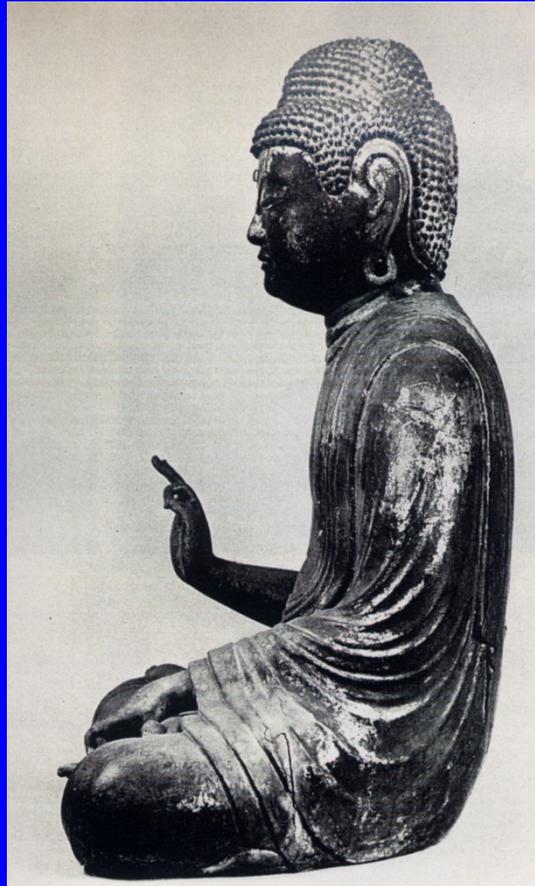
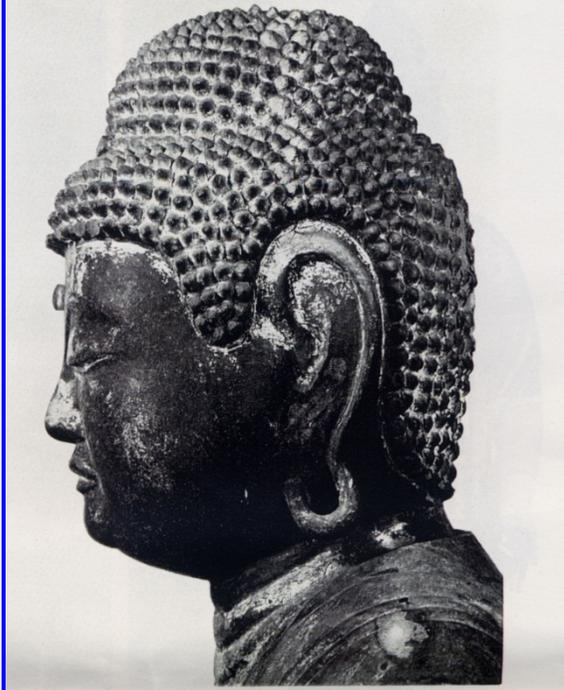
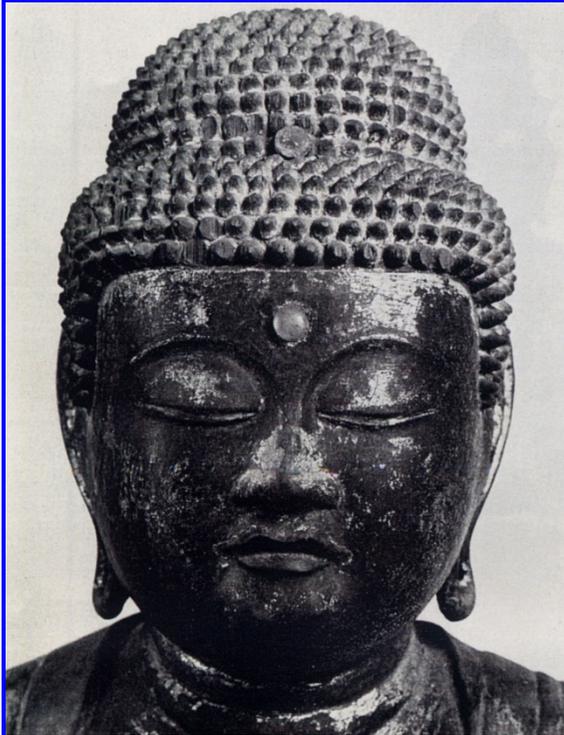


西光院の位置 (字東)

西光院阿弥陀三尊像



国の重要文化財。阿弥陀堂に元々あった。現在は東京国立博物館に寄託。安元2年(1176)造立



阿弥陀如来坐像 头部 侧面 裏面
(日本彫刻史基礎資料集成 昭和43年)



觀音菩薩立像

(日本彫刻史基礎資料集成 昭和43年)



勢至菩薩立像

(日本彫刻史基礎資料集成 昭和43年)

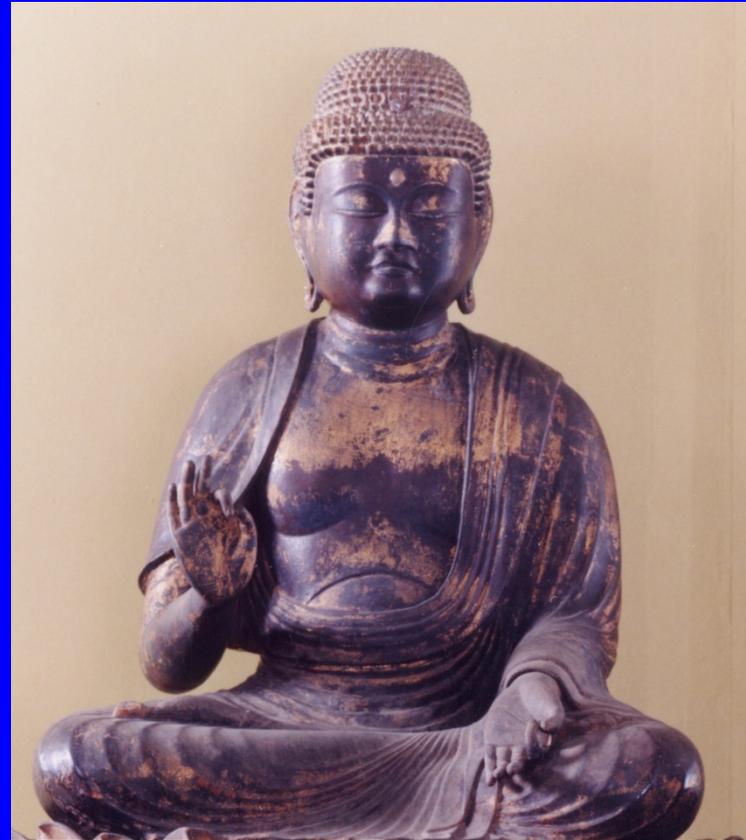


宇治 平等院阿弥陀如来坐像

像高278.8cm

木造、漆箔

仏師定朝によって平安時代後期、天喜元年(1053)に造られた。上品上生の印。



西光院阿弥陀如来坐像

像高91.58cm

木造、漆箔

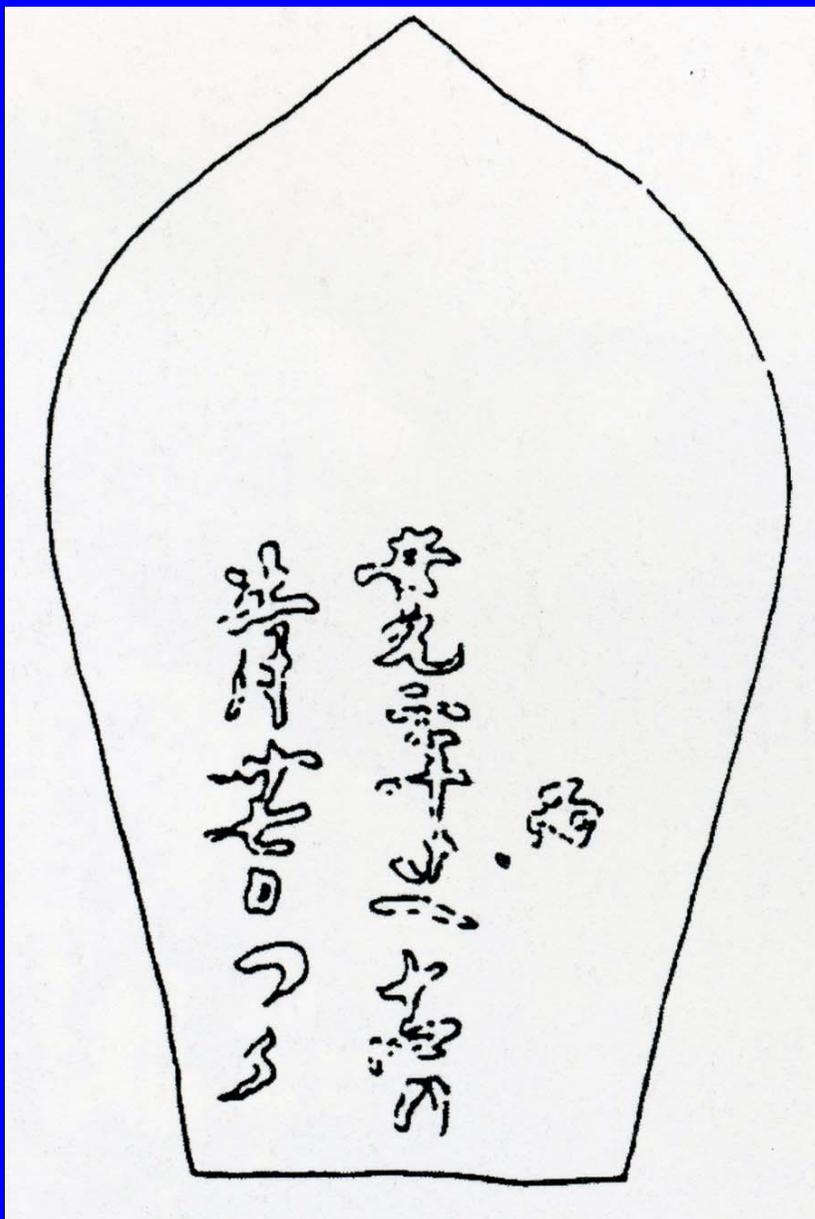
定朝様式の平安時代末期、安元2年(1176)に造られた。上品下生の印。

□

(丙?)

安元二年□十四日

□(五)月廿七日(フク・ツ
クル?)

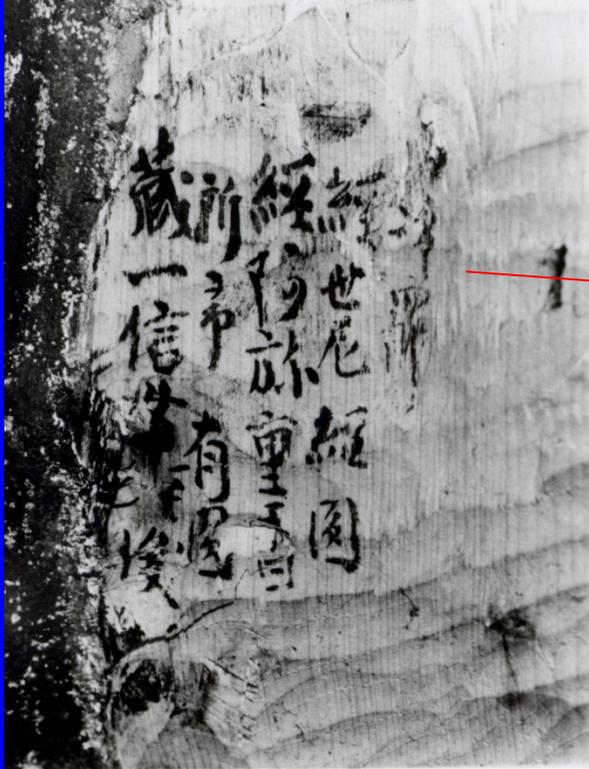


大正十五年の修理の
時、台座の蓮弁の裏
に記されていたこと
が発見された。
これによって、阿弥
陀三尊像の造られた
年代がわかる。

阿弥陀如来 台座 蓮弁裏 墨書銘

(日本彫刻史基礎資料集成 昭和43年)

阿弥陀如来坐像内の墨書銘があり、室町時代に修理されたことがわかる。



(像内後頭部 墨書)

謹奉

太田

寺之当住

愛沙

長禄二年二月吉日十二

位殿 之内二成

营従 始已来

州成□ 死迷早悟

□子 尊容

関東下野
塗彩者也之

(同首柄内墨書)

□ 妙金尼

□

(同膝裏内顎部墨書)

□ 次四郎□

経世尼経円

経阿弥重□

所□有円

蔵一信女□俊

※長禄2年(一四五八)

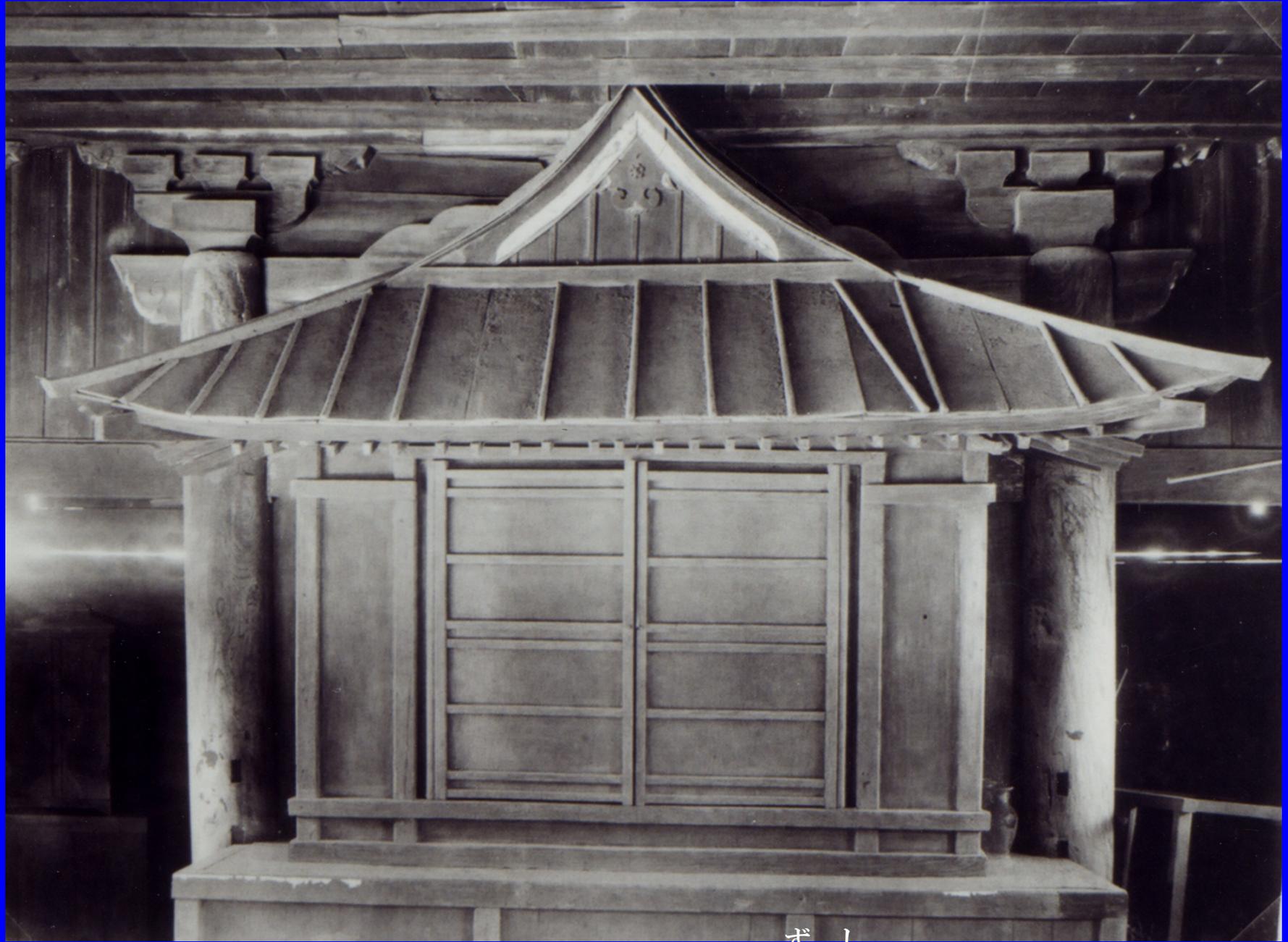


西光院阿弥陀堂

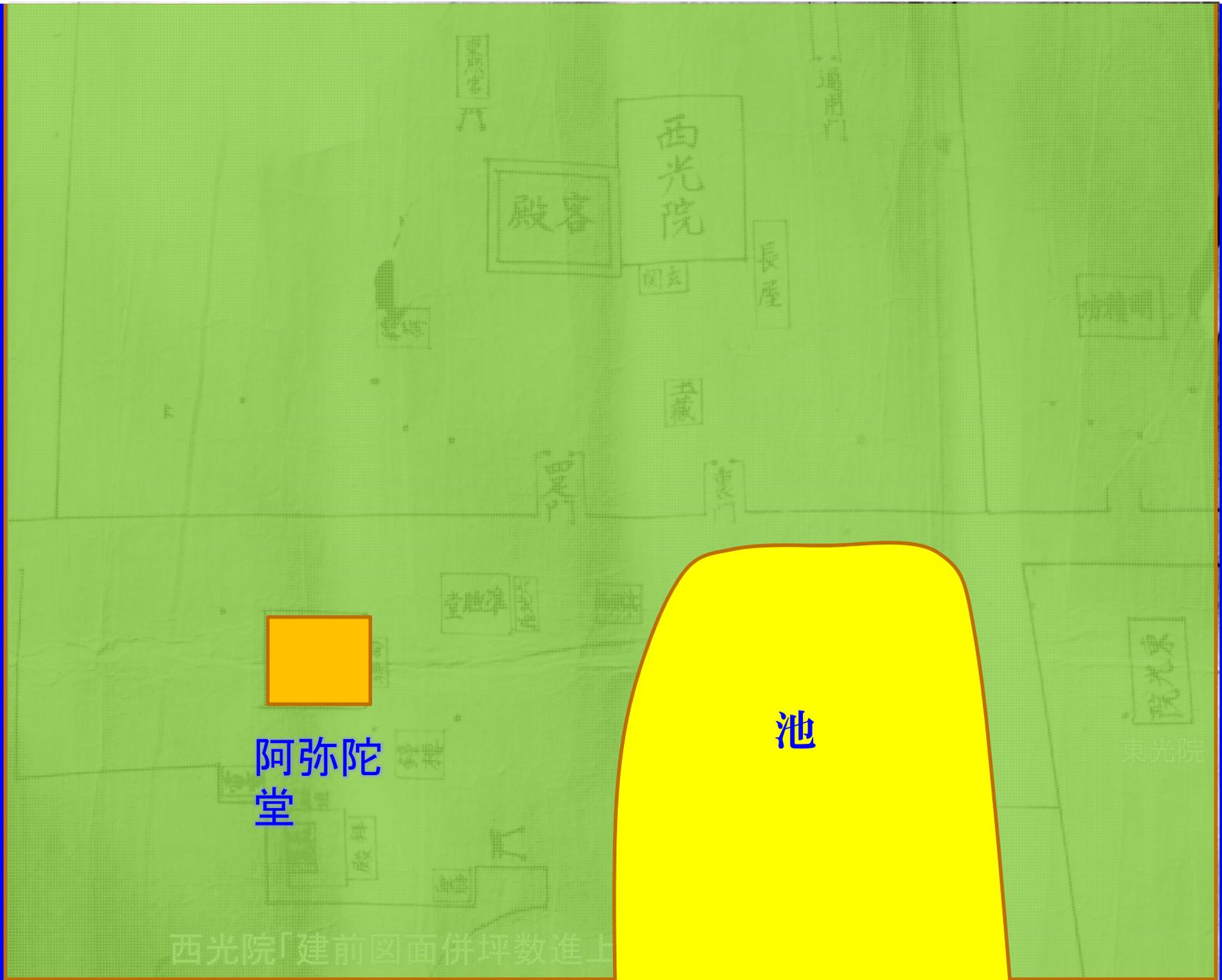
昭和27年に焼失。室町時代の建物。残っていれば国宝級。長禄2年(1458)の修理以前にも阿弥陀堂があった可能性が高い。



阿弥陀堂(側面) 3間×4間



阿弥陀堂(内部 ずし厨子)



阿弥陀堂

池

西光院「建前図面併坪数進上



3間×3間

白水阿弥陀堂(いわき市)

永暦元年(1160)創建 浄土庭園

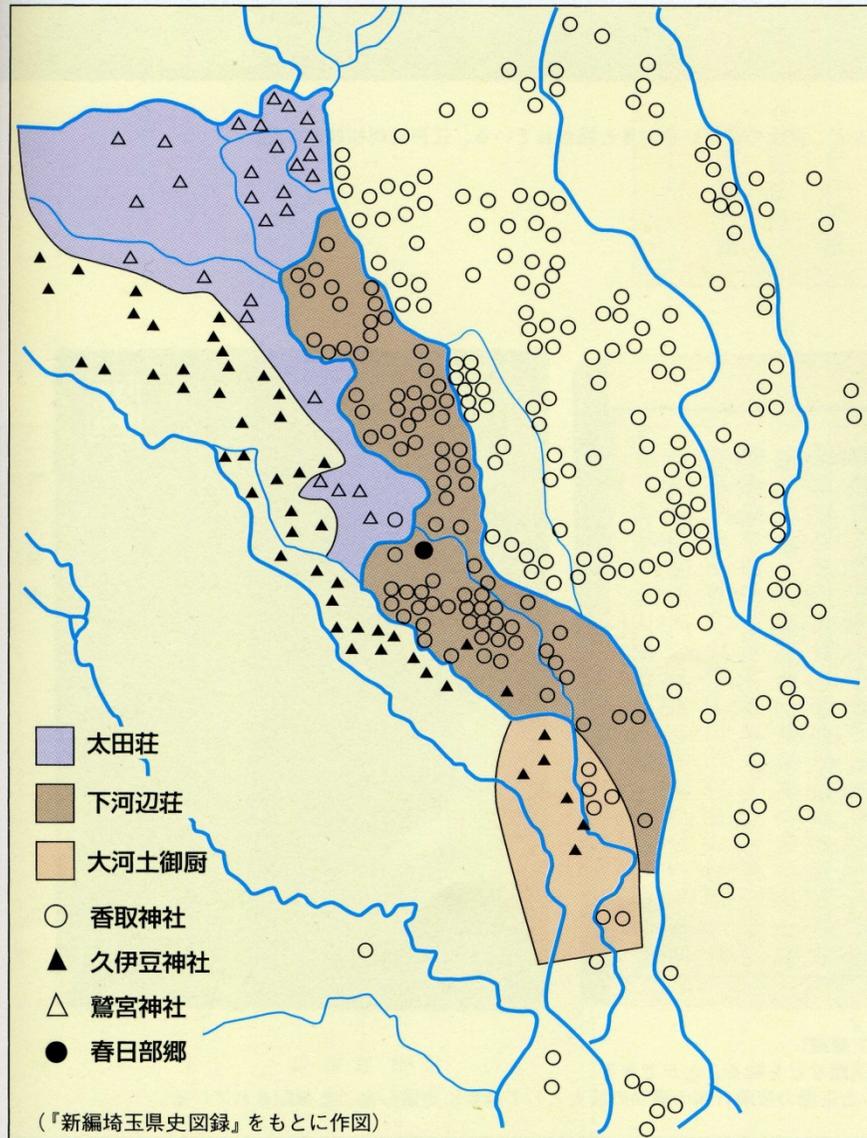


太田荘の範囲

北埼玉郡と南埼玉郡にまたがる広大な荘園であった。

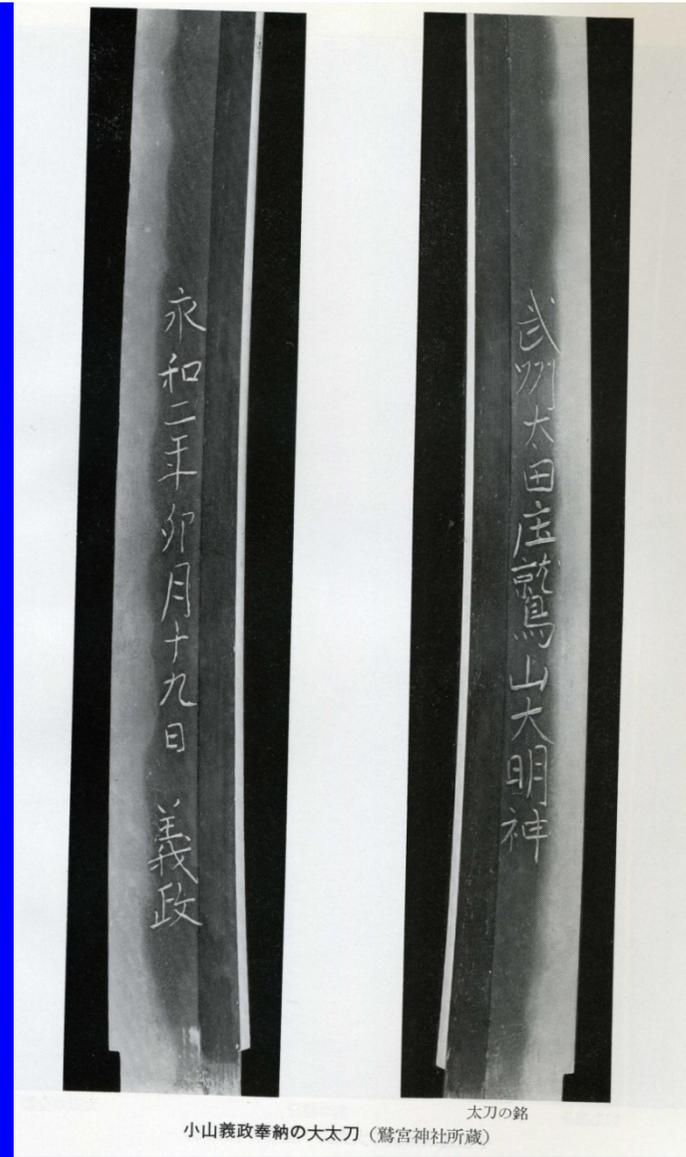
太田荘

神社分布と荘域図



香取神社は、下総国の一の宮である香取神社(現千葉県佐原市)を分祠したもので、中世の下総国の領域に分布している。また、鷺宮神社は太田荘の荘域、久伊豆神社は武蔵武士団の野与党の勢力圏(武蔵国埼玉郡)に分布している。

神社の分布と太田荘(鷺宮神社)



小山義政奉納鷺宮神社大太刀

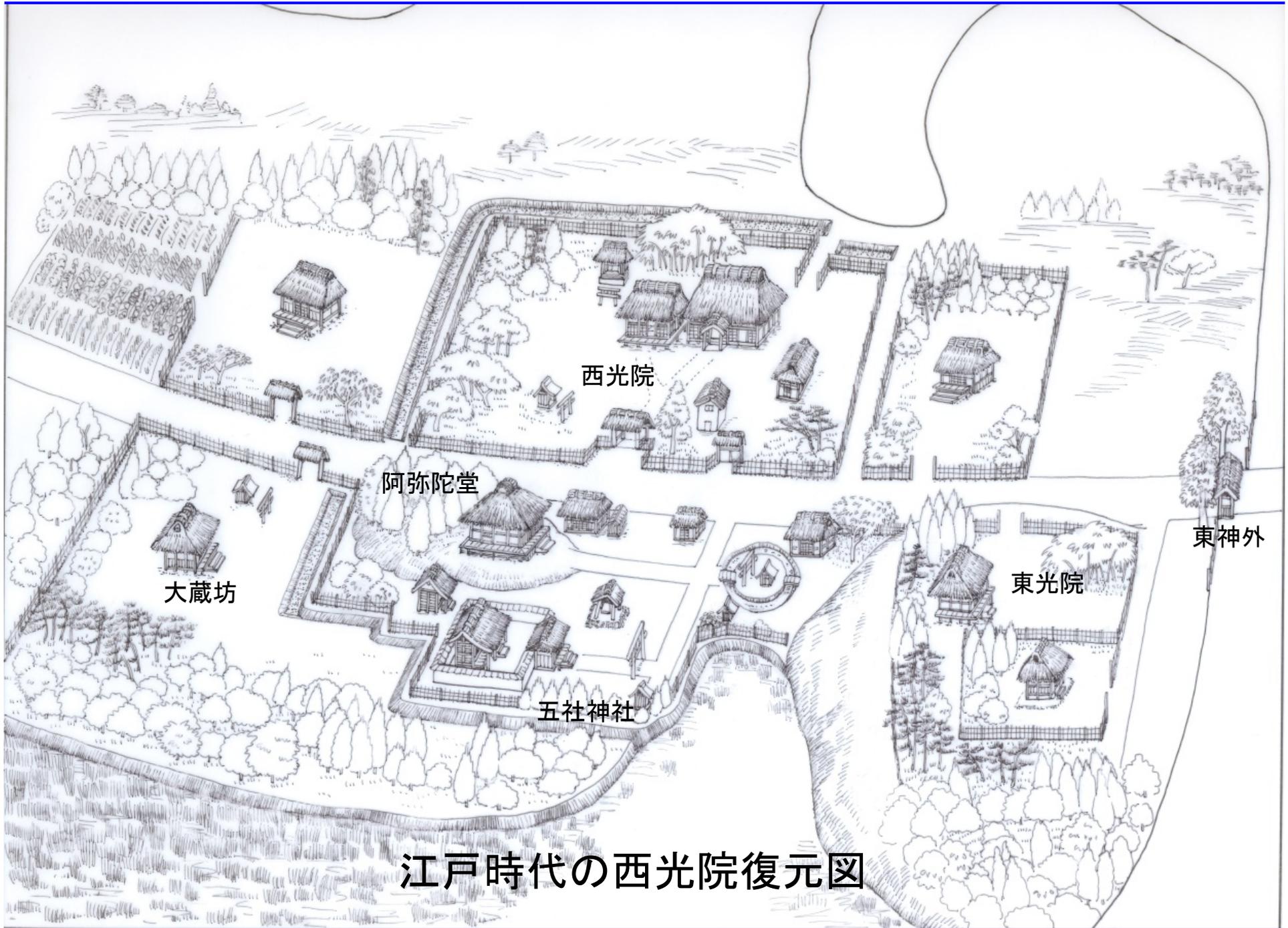
永和2年(1376)、康暦2年(1380)
 小山義政の乱。太田庄没収。



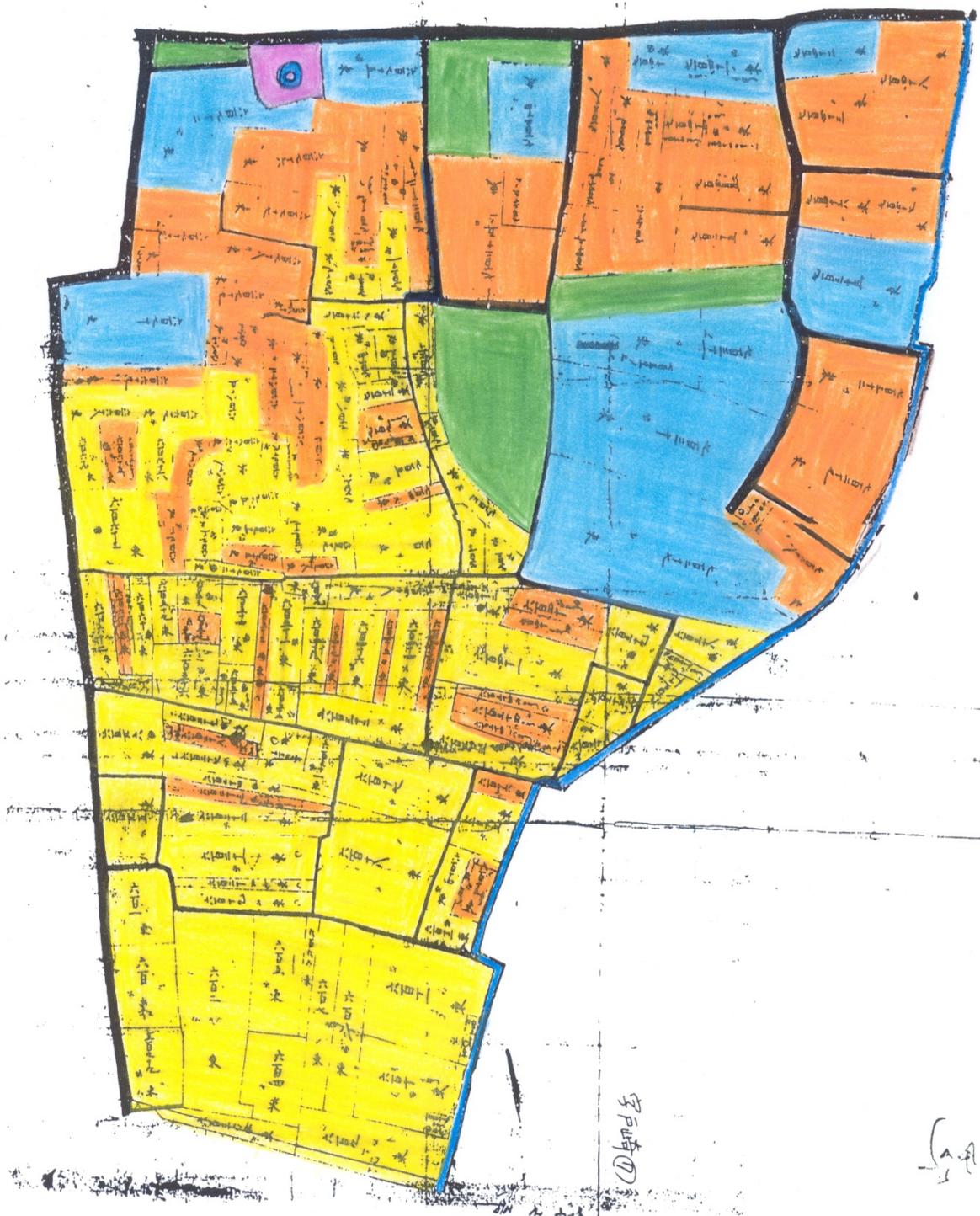
西光院絵図(江戸時代)



西光院「建前図面併坪数進上書」寛政2年 (1790)



江戸時代の西光院復元図



明治10年の字東谷
垂の地籍図。

水色が宅地

オレンジが畑地

黄色が田圃

ピンクが寺社

青が堀・池

左上に弁天池が見ら
れる。

まとめ

- 4世紀後半～6世紀終末までは山崎山遺跡や道仏遺跡のような拠点的集落あり
- 7世紀代は東条原前遺跡、山崎山遺跡
- 8世紀(奈良時代)には東条原前遺跡のみ、9～10世紀では東条原宿屋敷遺跡、身代神社遺跡、山崎遺跡の3遺跡のみ
- 12世紀後半西光院阿弥陀三尊像の造立。
- 白水阿弥陀堂のようなイメージ。同時代。
- 西光院を建立できる地域権力の存在。太田庄の開発領主太田氏やその関係者か。
- その時代の遺跡はみつかっていない。

ありがとうございました。